小単元名 p.　～	指導の手引 〔単元バージョン〕	小単元の目標	小単元の学習内容を踏まえ，まとめの学習後に児童が到達している目標が示されています。

つかむ

p.
児童が学習内容に疑問や関心を持ち，学習問題を考えたくなるような導入部分。
下の吹き出しのような言葉が児童から出るように，実態に合わせて工夫を！

※児童の気付きや疑問
【児童の言葉で記述】

※児童の気付きや疑問
【児童の言葉で記述】

学習問題
単元を通して追究し，解決に向かう学習問題。本文中では ? で記述。

調べる

p.
○　学習問題を解決するための体験や調査，△○を調べよう等で記述しています。
・
・
・

※調べる活動の際の留意事項
例　調べる観点，準備物，約束，
インタビューのしかた，資料等

p.
○　体験や調査を振り返り，まとめる活動。△○をまとめよう等で記述しています。
・
・
・

※まとめる活動の留意事項
例　まとめる観点 ，まとめ方の例等

まとめる

p.
○ 体験や調査をもとに，学習問題を解決するためのまとめの活動。　△○を～よう等で記述しています。

※まとめる活動の留意事項

まとめ，学習のゴールの姿
※作品の評価規準や，C児への手だて等も記載しています。

教科書の活用

○ 教科書と副読本を併用する際のポイントを記述しています。

小単元名 p. 2～9	**①学校のまわり**	小単元の 目標	観察，調査，表現などの楽しさを味わわせるとともにまちの様子や生活する人々に関心を持ち，地域社会の一員としての自覚を育てる。

つかむ

p.2

◎ お気に入りの場所をしょうかいしよう

・生活科での学習を振り返り，学校の周りにある場所を紹介し合い，探検活動に意欲を持たせる。

・事前に児童に紹介したい場所を聞き取り，教師が写真を撮っておき，「ここはどこだろう？」とクイズ形式で提示することも考えられる。

お気に入りの場所に
わたしも行ってみたいな！

他にもないかな？
みんなでさがしたいな！

学習問題

みんなが見つけたふしぎやお気に入りの場所を調べましょう。

調べる

p.3

◎ 家の近くや学校のまわりを たんけんしよう

・**探検活動の観点「見ること」「聞くこと」**

・**準備物，ルール**

・**たんけんカードや白地図の記入のしかた**

・**インタビューの仕方**

・**方位磁針の使い方**

充実した活動にするために，事前にしっかりと指導しておく。

p.4～5

◎ 調べたことをまとめよう

探検で見つけたことや調べてきたことを観点ごとに整理し，絵地図にまとめさせる。

〈まとめる際の観点〉

・地形　　・土地利用

・主な公共施設　・交通の様子

・古くから残っているもの　など

まとめる

p.6～9

◎ 分かりやすい地図に整理しよう

・分かりやすい地図にするために，どんな工夫をすればよいのか話し合いながら作業を進めさせる。

・グループ毎の地図を１枚の大きな地図に貼り合わせることで，学区内全体の様子や特徴をおさえさせる。その際，**「縮尺」**の定義をおさえておく。

・分かったこと，発見したことは地図の外に書き，探検時に撮影した写真も添付しておくと分かりやすい。

◎ 学校のまわりを高いところからみてみよう。

・高いところからみた様子と絵地図との様子を比べて，方位ごとの様子について発表させる。

・さらに遠いところの様子を考えさせることにより，次単元「仙台市のようす」の学習につなげるようにする。

教科書の活用

○　教科書，副読本の両方の事例地を取り上げることで，自分たちのまちとの類似点，相違点を見付けることができる。他地域の地図に触れることで，地図の見方，方位や地図記号などの理解を深めることができる。

p. 2, 3	大単元名	1 わたしたちのまち みんなのまち	小単元名	① 学校のまわり

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは，観察，調査，表現などの楽しさを味わわせるとともにまちの様子や生活する人々に関心を持ち，地域社会の一員としての自覚を育てることである。学校のまわりを探検し，見つけたことを地図に表して紹介する。子どもらしい発想を大切にしながら意欲的に学習が進められるように配慮する。

本文「わたしたちのまちの お気に入りの場所をしょうかいしよう」

単元への導入として設定する。生活科の学習を振り返り，学校のまわりにある場所を紹介し合い，探検活動に意欲を持たせる。

本文「見てこよう！ 聞いてこよう！」

探検活動の観点である。充実した活動が展開できるように，事前にしっかりと指導しておきたい。『古くから残っているもの』の観点が，学習指導要領に加えられた。

写真「お気に入りの場所」

児童に紹介したい場所を聞き取っておき，教師が事前に写真を撮影しておく。写真を基に「ここはどこだろう？」と，教師がクイズ形式で提示することも考えられる。

「たんけんに持っていくもの」
「たんけんカード」
「学び方コーナー」

本単元以降の見学活動においても共通する準備物や約束事である。事前に指導しておきたい。インタビューの仕方も練習させておきたい。

?マーク

「学習問題」の提示。本単元以降も共通のマークである。

＊学区の実情により，東西南北，
○丁目コース，公園コースなど
「探検コース」を設定するとよい。

p. 4, 5	大単元名	1 わたしたちのまち みんなのまち	小単元名	① 学校のまわり

本文「調べたことをまとめよう」

探検で見付けたことや調べてきたことを観点ごとに整理し，絵地図にまとめさせる。事前に，どんなことを調べたり，書き込んだりしたらよいかなどを指導してもよい。

写真「並木道」

探検時に気になったことや，友達に知らせたいことなどをデジタルカメラで撮影させてもよい。また，気付いたことを分かりやすく絵や言葉で地図に書き込ませる。

写真・吹き出し「車いすの方にインタビュー」

いろいろな立場の方にインタビューすることにより，自分たちでは気付かない発見ができる。

写真「方位磁針」

方位磁針の使い方を事前に指導しておく。また，地図は北を上にして表すことが多いことを理解させたい。

学び方コーナー「絵地図のかき方」

調べたことを観点ごとに分けて整理し，絵地図にまとめておく。

- 地形　　・土地利用
- 主な公共施設
- 交通の様子
- 古くから残っているもの

など

p. 6, 7	大単元名	1 わたしたちのまち みんなのまち	小単元名	① 学校のまわり

本文「分かりやすい地図に整理しよう」
　分かりやすい地図にするためには，どのような工夫をすればよいのか，話し合いながら作業を進めさせるとよい。

本文「縮尺」
　これを基に計算すると，実際の距離が求められることを押さえる。

キャラクターの吹き出し
　グループごとの地図を１枚の大きな地図に貼り合わせることで，学区内全体の様子や特徴を押さえさせたい。

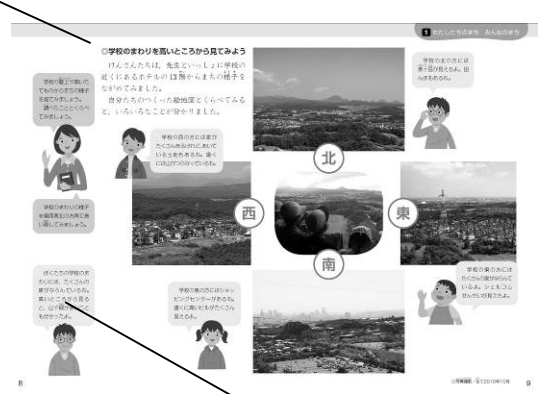
図「地図記号」
　ここでは，地図記号の利便性をつかませたい。
　地域の実態によっては，学区の地図に使用しない地図記号もあるが，成り立ちなどを示すことで，いろいろな地図記号に対しても関心を持たせたい。

本文「絵地図から分かることを話し合ってみましょう。」
　分かったこと，発見したことなどは，地図のまわりに書くと分かりやすい。探検時に撮影した写真も貼付しておくとさらに分かりやすい。

p. 8, 9	大単元名	1 わたしたちのまち みんなのまち	小単元名	① 学校のまわり

本文「学校のまわりを高いところから見てみよう」
　学校の屋上で四方位を概観させ，地図と景色を見比べながら紹介し合う。まちの様子の違いを見つける観点に気付かせる。
　屋上に上がることができない場合は，近くの高い場所からの概観に変えるとよい。この活動ができない場合は，スライドや写真を用意して学習を進めるなどの工夫をしたい。

＊屋上などの高い所場所に持って行く物は，地図や方位磁針など最小限にする。
＊安全面に十分配慮する。



※探検や発表会で分かったことから，わたしたちのまちの特色や感想をまとめさせる。

次時への意欲付け
　方位を確かめながら，学校のさらに向こうはどうなっているのか興味を持たせ，次時の「仙台市の様子」につなげていくようにする。

小単元名 p.10～19	②仙台市の様子	小単元の目標	仙台市の特色ある地形，土地利用，主な公共施設，交通の様子などを調べ，場所によってそれぞれの特色に違いがあることを考えさせる。

つかむ

p.10

◎ 仙台のまちを空から見てみよう

・仙台駅を中心に東の方向を撮影している写真なので，地図の方位とは異なっていることを押さえる。

・航空写真を見て，行ったことのある場所や知っている場所を発表させる。また，気付いたことを発表させながら，仙台市の様子を大まかに捉えさせる。

仙台の中心には高いビルや大きい道路があるね。

写真には写っていない所はどんな様子なのかな？

学習問題

わたしたちが住んでいる仙台市の土地の様子やまちの様子を調べましょう。

調べる

p.12～13

◎ 市の様子を写真や地図で見てみよう

・市の東西南北の空から撮影した写真

・主な川，鉄道，道路

・八方位での表し方

・インターネットを使って調べる方法

グループに分かれて，土地の様子や使われ方について調べさせる。その際，巻末資料の地図を活用するとよい。

p.14～15

◎ 市の土地のとくしょくについて考えよう

各グループの発表から，

土地の使われ方が，場所によってちがうのはどうしてでしょうか。

について考えさせる。

※「土地の高さ」

「川や海，交通の様子」

と関連付けて考えさせる。

まとめる

p.16～17

◎ 仙台市のガイドマップを作ろう

・調べたこと，友達の発表から分かったことを整理して紹介したい内容を選ぶ。

・一言コマーシャルを考えさせる。（例）「自然に恵まれた仙台」

自分が作るガイドマップのテーマになる。→「泉ヶ岳，広瀬川などを紹介しよう！」

・仙台市のパンフレットなどを参考にして，作品のイメージを膨らませる。

・写真やイラストを入れるなど各自の工夫を取り入れる。

・友達との作品の交流を通して，

『仙台市のことをもっと詳しく調べたい。』という意欲を持たせ，次の単元につなげる。

学級の実態に合わせて，個人，グループで作成させる。

教科書の活用

○　調べる活動では，教科書のように「仙台駅のまわり」「秋保温泉のまわり」等，場所毎にグループ分けすることも考えられる。また，教科書には場所ごとに地図，写真などが豊富に掲載されているので，調べる際に資料として活用できる。「学び方コーナー」の地図作りも参考にさせたい。

p. 10, 11	大単元名	1 わたしたちのまち みんなのまち	小単元名	② 仙台市の様子

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは，学区の学習を基に，仙台市全体の様子に関心を持たせ，生活経験や見学活動などを通して，市全体の様子を捉えさせることである。仙台市の特色ある地形，土地利用，主な公共施設などの場所や働き，交通の様子などを調べ，場所によってそれぞれの特色に違いがあることを考えさせる。

キャラクターの吹き出し

航空写真を見て，行ったことのある場所や知っている場所を発表させる。また，気付いたことや不思議に思ったことなどについて話し合うことを通して，仙台市の様子を大まかに捉えさせたい。

※学習対象が，学区から仙台市全体に広がったことをしっかりと意識付ける。

写真「航空写真」

仙台駅を中心に，東の方向を撮影している。地図の方位とは異なるので，説明が必要となる。

仙台市の中心市街地にあるＪＲ仙台駅や仙台市役所，宮城県庁の位置などを確認させたい。

また，青葉通や広瀬通，定禅寺通なども見付けさせたい。

区名

区の名前を記入させ，自分が住んでいる区に色を塗らせる。自分たちの学校の大まかな位置も記入させ，仙台市の中のどこに位置するのかを確認させたい。

※航空写真は，次ページ以降の学習における，白地図・地形図・土地利用図などと見比べる活動の際にも活用したい。

p. 12, 13	大単元名	1 わたしたちのまち みんなのまち	小単元名	② 仙台市の様子

本文「市の様子を写真や地図で見てみよう」

仙台市の東西南北の上空から撮影した写真であることを説明する。白地図で位置を確認しながら写真と見比べ，仙台市の土地の様子について調べる課題を持たせたい。

資料編の地図「仙台市の様子」や「仙台市の土地と交通の様子」などと見比べさせると，課題意識が高まるものと思われる。

※仙台市の土地利用の様子について，調べる課題を作らせるための資料である。主な川，鉄道，道路の位置と写真，吹き出しを関連付けて考えさせたい。

学び方コーナー「じっさいに，たんけんができないときは？」

直接見学することは難しいであろう。その際，ホームページや他校との情報交換，ビデオ視聴や写真などを活用することで調べられることを捉えさせたい。

写真・キャラクターの吹き出し

仙台市の東西南北の土地の様子を表している。吹き出しと地図を見比べながら，特徴を捉えさせたい。

学び方コーナー「八方位」

八方位を用い地図上の特定の地点を説明させることを通して，八方位の必要性や便利さに気付かせたい。

p. 14, 15	大単元名	1 わたしたちのまち みんなのまち	小単元名	② 仙台市の様子

先生の吹き出し
　仙台市の土地の高さと土地利用の様子を関連付けて考えさせる。地図記号や川，鉄道，道路の様子にも注目させたい。

※前ページの図と合わせて学習するとよい。
※土地の高さを色で表し，地図記号も掲載しているので，地図記号の学習にも活用できる。

写真
　児童が撮影してきたものを活用してもよい。

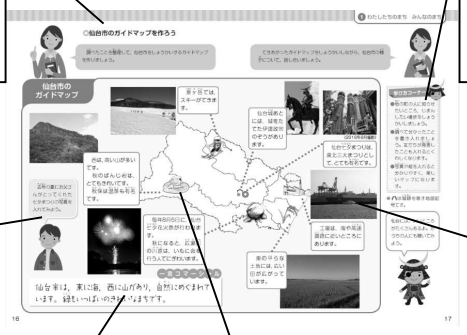
※児童の実態に応じて，あらかじめ主な道路や川などをかいた白地図を配布して作業を進めることも考えられる。
（白地図は教育センターHPのわたしたちのまち仙台『指導の手引き』からダウンロードできます。）

地図記号
　他にもいろいろな記号があることを知らせ，調べさせる。地図記号に慣れさせる。

p. 16, 17	大単元名	1 わたしたちのまち みんなのまち	小単元名	② 仙台市の様子

本文「仙台市のガイドマップを作ろう」
　調べて分かったことや気付いたことなどを整理し，仙台市のガイドマップを作らせる。
　これまで調べたことのほかに，新たに興味を持ったり疑問に思ったりしたことなどを調べてもよい。

学び方コーナー
　「仙台市ではないところに住んでいる人たちに伝えよう。」という働き掛けから，意欲付けを図りたい。自分が調べた地域だけでなく，友達が調べた地域も取り入れながら，仙台市全体を紹介させたい。



キャラクターの吹き出し
　家の人にインタビューしたことを取り入れてもよい。

写真
　児童が撮影した写真を取り入れてもよい。そのほか，インターネットやパンフレットなどの写真を活用することも考えられる。

一言コマーシャル
　自分の考えや友達の発表，家の人のインタビューなどから，仙台市のイメージを膨らませ，一言コマーシャル作りに取り組ませたい。

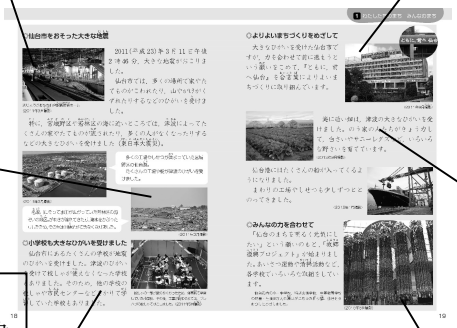
イラスト
　写真を取り入れることが難しい場合など，簡単なイラストで表現してもよいことを働き掛けたい。児童一人一人が，分かりやすく楽しいマップにすることができるよう，個に応じた工夫を引き出したい。

p. 18, 19	大単元名	1 わたしたちのまち みんなのまち	小単元名	② 仙台市の様子

写真
東北新幹線は，４月２５日，福島－仙台間の運転を再開，また，仙台市地下鉄は，４月２９日に全線再開するなど，人々の努力により異例の早さで交通機関を復旧させることができた。

＊震災で被害を受けた児童や学校の状況に十分配慮して取り扱うことが求められる。

本文・写真
仙台市では，「ともに，前へ仙台」を合言葉に，復旧・復興に取り組んでいる。震災後，児童はこのようなスローガンや横断幕，のぼり等を目にしたことと思われる。多くの人たちに支えられていることを捉えさせたい。



本文・写真
震災直後の沿岸部の写真。現在は仙台市の復興計画に沿って，着実に復興していることを押さえさせたい。

本文・写真
p.18 の写真とほぼ同じ地区である。海水をかぶったため，協力して野菜を育て，大手スーパーなどに卸している。
早く以前のような稲作に取り組みたいという農家の願いをつかませたい。

本文・写真
仙台市でも多くの学校が地震や津波の被害を受けた。本文や写真のように，校舎が使えなくなった学校もあったことを押さえさせたい。また，自分たちの学校は，どのような被害を受けたのかを知らせてもよい。

※資料として，防災副読本「3･11 から未来へ」を活用するとよい。

本文・写真「故郷復興プロジェクト」
平成２８年度も引き続き，市内の学校それぞれが，保護者，関係機関等と協力し，復興に向けて地域のために活動を行った。自分たちの学校での取組について振り返り，話し合わせることも考えられる。

小単元名 p.20～29	①わたしたちのくらしと商店	小単元の目標	地域の販売に関する仕事について，私たちの生活を支えていること，仕事の特色及び国内の他地域との関わりなどを調べ，仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。

つかむ

p.20～23

◎ 買い物調べをしよう。

○ 買い物について振り返り，紹介し合う。

・日頃どんな店で，どんな物を買っているのかについて紹介する。
デパート，コンビニエンスストア，スーパーマーケット，商店　など

・どこにどんな店があるか地図上で確かめる。
学区内，学区外，校外

○ 買い物調べの結果をまとめ，分かったことを話し合う。

買い物調べを表やグラフにすると分かりやすいね！

お客さんはいろいろある店をどのように利用しているのだろう！

学習問題
スーパーマーケットにたくさんのお客さんが集まるのはなぜでしょうか。

調べる

p.24～25

◎ スーパーマーケットの見学

・スーパーマーケットにたくさんのお客さんが集まる秘密を調べて，見学カードに記入する。
（働く人，表示，商品，設備）

・店員さんにインタビューする。
（工夫，気を付けていること，願い）

・見学カードやインタビューの仕方を指導する。

p.27

◎ 調べたことをまとめて発表しよう

・見学して見付けたスーパーマーケットの工夫を多様な表現でまとめる。

・新聞，紙芝居，ペープサート，ポスター

p.26

◎ まちの人々とともに

・スーパーマーケットが行っている工夫を紹介し合い，工夫について考える。

p.28～29

◎ いろいろな店とこれからの買い物

・買い物で気を付けること

・買い物をするときの店の選び方

教科書の活用

○ 教科書，副読本の両方の事例を取り上げることで，自分たちの地域のいろいろな店との類似点，相違点を見付けることができる。

○ 見学の仕方，ワークシートのまとめ方，インタビューの仕方などの学び方を身に付けることができる。

p. 20, 21	大単元名	2　仙台市の人々の仕事	小単元名	①　わたしたちのくらしと商店

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは，販売の仕事と自分の生活との関わり，販売の仕事の特色と他地域との関わりなどを調べ，それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えることである。地域の人々の生活を理解する上で欠かせない視点の一つは，生産と消費である。児童にとって身近な消費活動の様子を取り上げながら学習を進めていくとよい。

本文・写真「買い物調べをしよう」

事前に，家庭での「買い物調べ」や取材活動を行わせたい。

また，写真を取り上げ，買い物への興味・関心を高めたい。

図「白地図と商店の写真」

まち探検の際，それぞれの地域にある商店の写真を撮影して授業で提示するなど，実感を持って探検活動に臨むことができるようにする。

また，まち探検で作成した地図上に店の場所を示し，学校との位置関係，住宅地や通りとの関係などにも着目させる。

図「買い物調べ」

レシートや１週間の買い物調べを基に，買った物や買った店などを分類した絵グラフにまとめさせる。

３年生という発達段階から，大型の絵グラフが捉えやすい。

＊絵は買い物の回数を表している。

小売店

卸業に対し，販売を目的とした店舗を「小売店」という。このグラフでは，その中でも特定の品物を専門に販売している商店を，スーパーマーケットと区別している（肉屋や魚屋など）。３年生にとってなじみの薄い言葉であるので説明をするとよい。

p. 22, 23	大単元名	2　仙台市の人々の仕事	小単元名	①　わたしたちのくらしと商店

グラフ「買い物をする店調べ」

各自が調べてきたことを学級でまとめてみるとよい。地域の買い物の様子が分かる。

●を使ってまとめることで，棒グラフの読み取りにもつなげていきたい。

通信販売

小売業態のうちの無店舗販の一つで，消費者から通信手段で注文を受け商品を販売する。

近年はインターネットの普及に伴い，ウェブサイトから注文を行う消費者もいる。

本文「こうたさんのお母さんの話」

お母さんの話から，身近な人が「普段の買い物で気を付けていること」を読み取らせる。

店の工夫についても気付かせていきたい。

キャラクターの吹き出し
「お店の人はどんなことに気をつけているのかな」

見学を行う前に，「お客さんが集まるわけ」について「気を付けていること」「工夫していること」などの視点を与え，予想を立てさせる。見学に向けて，意欲付けを図ることが大切である。

p. 24, 25	大単元名	2　仙台市の人々の仕事	小単元名	①　わたしたちのくらしと商店

写真「スーパーマーケット」
　ここでは可能な限り，見学を取り入れた学習活動を工夫する。
　見学に際し，前もって店に見学の観点を知らせ，見学内容，経路等を決めておく。

本文「店長さんの話」
　買う側の「お母さんの話」に対し，売る側の「お店で働く人」にインタビューし，店の工夫について調べさせる。
　可能であれば買い物に来ている人にもインタビューをし，それぞれの工夫について比べさせたい。

キャラクターの吹き出し
　キャラクターの発見や疑問が自分たちの見学のどの観点と結び付いているか考えさせる。
　また，店の中だけでなく，普段は見られない店の裏側でも，多くの人たちが働いていることや様々な工夫があることに気付かせたい。

図「店内の様子」
　見学の際には，商品の並べ方や配置の仕方に工夫があることに気付かせたい。あらかじめ見取り図などのワークシートを準備し，書き込ませるとよい。

p. 26, 27	大単元名	2　仙台市の人々の仕事	小単元名	①　わたしたちのくらしと商店

写真　まちのひとびとととともに
本文　「店長さんの話」
　スーパーマーケットやショッピングセンターなど多くの人たちが利用する店では，様々な人が利用しやすいよう工夫がなされていることに気付かせたい。
　また，買う人の思いや考えが，店の工夫に生かされていることにも気付かせることが大切である。

写真「発表会」
　これまで学習したことをグループごとにまとめ，発表会を行う。
　学習内容に応じて，適切な発表方法を教師側が押さえておきたい。分かったことや考えたことが，分かりやすく表現できるように支援したい。

補助犬マーク
・盲導犬マークが介助犬等を含む補助犬マークに変わっている。

発表例
・デジタルテレビを使っての説明
・壁新聞にまとめての発表
・紙芝居での発表
・ペープサートでの発表

p. 28, 29	大単元名	２ 仙台市の人々の仕事	小単元名	① わたしたちのくらしと商店

本文・写真 「いろいろな店とこれからの買い物」
地域によっては前述のような商店を扱えない場合があるので，郊外の大型店や複合型商業施設，コンビニエンスストアを題材にすることも考えられる。
また，児童の興味・関心や地域の実態を考慮しながら取扱いを検討する。

仙台市消費生活センター TEL０２２－２６８－７８６７
消費者が情報を正しく理解し，主体的に選択し契約ができるように，また，安全で安心な消費生活を送ることができるように消費者支援を行っている。消費生活に役立つ情報を提供するとともに，講座の開催，パネルやビデオの貸出しも行っている。
ほかにも，消費生活上のトラブルについて相談を受け，解決に向けた手伝いを行っている。

キャラクターの吹き出し
消費者として条件に合った店や購買方法を選ぶことが大切であることを考えさせる。

リサイクルに関するマーク
＜グリーンマーク＞
古紙再生利用の紙製品に付けられたもの。（財）古紙再生促進センターが，経済産業省指導の下，実施している。
＜PET ボトルリサイクル推奨マーク＞
PET ボトルリサイクル推進協議会で再商品化された商品にマーク使用を認可している。PET ボトルからのリサイクル商品であることを示している。
＜エコマーク＞
（財）日本環境協会が実施しているマーク。商品を消費または廃棄する際，環境に負荷が少なく環境保全に役立つと認められる商品に付いている。
＜せんだいグリーン文具マーク＞
仙台市が定める環境配慮基準を満たす文具に付けられたもの。仙台市のホームページでも紹介されている。

p. 30, 31	大単元名	２ 仙台市の人々の仕事	小単元名	わたしたちの仙台市にはどんな「つくる仕事」があるのだろう

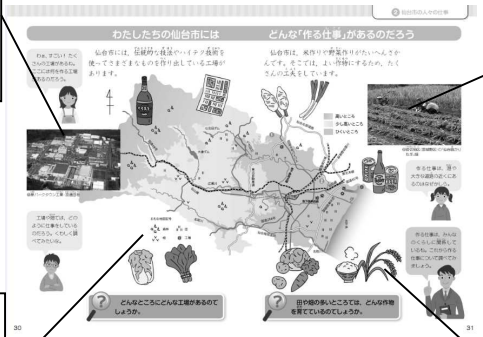
【小単元の指導に当たって】
本小単元のねらいは，仙台市内で作られている工業製品や農作物が，主にどこで作られているのかを把握し，今後の学習に向けて課題意識を持たせることである。②Ａ「わたしたちのくらしと工場の仕事」，②Ｂ「わたしたちのくらしと農家の仕事」の２小単元の導入となる学習である。

＜北部＞

写真「泉パークタウン工業・流通団地」
絵と関連させながら，泉区近辺には，本や新聞，かまぼこなどを作る工場があることに着目させる。

＜東部＞

写真「岩切地区の仙台曲がりねぎ畑」
地図記号や絵と関連させて，宮城野区の港近辺には，かまぼこやビールなどの工場が多いことに着目させる。港や道路との関連にも気付かせる。
岩切の「曲がりねぎ」も有名である。



＜西部＞

地図記号や絵と関連させて稲作や野菜作りが盛んであることに着目させる。
西部には，ウィスキー工場もある。

＜東部・南部＞

地図記号や農作物の絵と関連させて，農業が盛んであることに着目させる。
南部にはゴムの工場もある。

小単元名 p.32～37	②選択Ａ わたしたちのくらしと 工場の仕事	小単元 の目標	地域の生産に関する仕事に関心を持ち，自分たちの生活との関わりを見付けたり，生産・販売に見られる仕事の特色について調べたりして，それらの仕事に携わっている人々の工夫について考えることができる。

つかむ

p.32

◎ ささかまぼこについて話し合おう

・仙台の特産物であるささかまぼこの種類などについて取り上げ，関心を高める。
・グラフを活用して，宮城県はささかまぼこが有名であることを知る。

ささかまぼこは何から作られているのだろう！

ささかまぼこを作っている様子を見てみたいな！

学習問題

工場では，どのようにしておいしいささかまぼこをつくっているのでしょうか。

調べる

p.34～35

◎ かまぼこ工場を見学しよう

観点別に，児童が学習課題を立てるためのワークシートなどを事前に記入させてから見学させる。

＊観点の例

＜原料の工夫について知りたいこと＞
＜つくり方の工夫について知りたいこと＞
＜働く人の工夫について知りたいこと＞
＜歴史について知りたいこと＞
＜ゆくえについて知りたいこと＞

＊工場見学ができない場合は，蒲鉾店のｗｅｂページを活用することも可能である。

まとめる

p.36～37

◎ 調べたことをまとめて発表しよう

ささかまぼこについて，調べて分かったことをグループごとにまとめ，発表を聞きあって意見を交流させる。

＜グループでテーマを決めて，調べたことをもぞう紙にまとめよう＞

・ささかまぼこについて調べるテーマをグループで一つ決めさせる。
・児童一人一人がテーマに沿って調べ，絵や写真を交えながらカードにまとめさせる。
・レイアウトなどを工夫しながら，グループごとにカードを模造紙に貼ってまとめさせる。
・模造紙を使ってグループごとに発表し，意見を交流させる。

◎ 学習問題に対する自分の考えをまとめよう

これまでの学習や，グループの発表を聞いて分かったことをもとに，学習問題に対する自分の考えをまとめさせる。

＜学習問題について分かったことを，ノートに書いてみよう＞

・原料やつくり方など，ノートにまとめてあることや，各グループの模造紙の内容などを手掛かりにして書かせる。

教科書の活用

○教科書にも仙台市のささかまぼこ工場が大きく取り上げられている。副読本と併用して授業を展開することで，調べる際の資料とすることができる。

※「１年間に作られるかまぼこの量」は，2011 年の統計調査では宮城県は全国で１位の生産量でしたが，震災の影響で 2012 年には７位に落ち込みました。その後，原料となる魚の漁獲量の回復や，生産ラインの復旧などにより，平成２７年度は全国５位の生産量となっています。

p. 32, 33	大単元名	2　仙台市の人々の仕事	小単元名	②選択Ａ　わたしたちのくらしと工場の仕事

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは，生産と消費の仕事に携わっている人々の工夫を考えることである。地域の人々の生活を理解する上で欠かせない視点の一つは，生産と消費である。児童にとって身近なかまぼこを生産する仕事を取り上げ，原料や作り方，製品の流通，他地域とのかかわりなどを調べ，携わる人々の工夫について考えさせていく。

グラフ「1 年間に作られるかまぼこの量」

生産量を実感として捉えさせるためのグラフである。

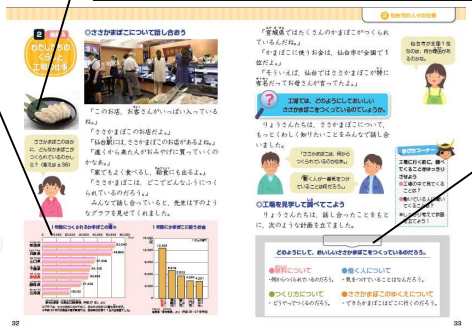
仙台市の贈答品では，ささかまぼこが主力商品になっている。各家庭での消費より，おみやげなど贈答品としての利用が多いことを補足説明する。

写真「ささかまぼこ」

仙台の特産物であるささかまぼこを導入で取り上げ，興味・関心を高めたい。

＊情報コーナー

阿部笹蒲鉾工場
　０２２－２２２－６４５５
鐘崎笹蒲鉾工場
　０２２－２３１－５２４１



図「ささかまぼこについて調べてくること」

観点を絞って，調べることを具体的に考えさせるとよい。

参考資料「１年間につくられるかまぼこの量」（2011 年同調査より）

東日本大震災により多くの蒲鉾工場が被災したため，2011 年までは生産量第 1 位であった宮城県が，2015 年では第 5 位に下がっていることを補足する。その際，左のグラフを活用するとよい。

p. 34, 35	大単元名	2　仙台市の人々の仕事	小単元名	②選択Ａ　わたしたちのくらしと工場の仕事

本文「原料について」

すけとうだらは，北洋の船上ですりみに加工される。

きちじは，石巻の水産会社と契約して確保している。

ひらめは養殖ひらめを使用し，コストを抑える企業努力をしている。

いとよりだいは，南洋で捕獲され，すりみに加工され送られて来る。

このほかに，真鯛もオーストラリアから空輸されて使われる。

本文・写真「工場で働く人の様子」

「一番気を付けていること」が衛生面なのはなぜか考えさせたい。

写真やイラストの工夫のほかに，温度や湿度の管理や消毒，換気，製品チェックなど様々な配慮がされている。

写真「かまぼこができるまで」

手作業で行われる作業と機械で行われる作業があることに気付かせたい。

※すり身の状態で仕入れることが多く，身おろしは工場でほとんど行われていない。

※情報コーナー

阿部笹蒲鉾店
http://www.abekama.co.jp

写真「販売している場所」

どんなところで販売しているのか，写真を通して考えさせるとともに，立地条件についても話し合わせると良い。

（左から，国道沿いの店舗，ＪＲ仙台駅構内の店舗）

p. 36, 37	大単元名	２ 仙台市の人々の仕事	小単元名	②選択Ａ　わたしたちのくらしと工場の仕事

写真「個人で調べたことをまとめたカード」
　グループで設定したテーマに沿って，児童一人一人が調べたことをカードにまとめさせる。
　まとめさせる際には，絵や写真などを交えながら，分かりやすく書かせたい。

写真「模造紙を使った発表」
　模造紙を使ってグループごとに発表させ，気付いたことや感想を話し合わせる。
　多様なまとめ方に触れさせることで，多面的な見方を身に付けさせていきたい。

写真「カードを貼付した模造紙」
　グループごとにカードを貼付した模造紙を作成し，発表する際に資料として活用させたい。
　設定したテーマについて分かりやすく伝えることができるよう，カードの貼り方などを工夫させる。

写真「学習問題についてまとめたノート記述」
　学習問題は，授業の際，常に児童の目に触れる場所に掲示し，課題意識を持って学習に取り組ませるようにする。単元の終末として，これまでの学習や，グループの発表を聞いて分かったことをもとに，学習問題に対する自分の考えをまとめさせる。

小単元名 p.38～41	②選択Ｂ わたしたちのくらしと 農家の仕事	小単元の目標	地域の生産に関する仕事に関心を持ち，自分たちの生活との関わりを見付けたり，生産・販売に見られる仕事の特色について調べたりして，それらの仕事に携わっている人々の工夫について考えることができる。

つかむ

p.38

◎ わたしたちの市でつくられる野菜を調べよう

・学校給食を活用して，地区の生産物への関心を高める。
・「仙台曲がりねぎ」「仙台白菜」「仙台雪菜」などの特産物を紹介する。
　※仙台あおば餃子：仙台雪菜を皮に練り込んだもの

他にどのような野菜が作られているのかな？

おいしい野菜をつくるために，どんな工夫をしているのかな？

学習問題
農家ではどのようにして，おいしい野菜を作っているのだろう。

調べる

p.39

◎ 農家を見学して調べてこよう

学校から近い農家を見学したり，農家の方を学校の畑に招いたりして，インタビューをさせる。

★農家の方にインタビューしたい内容など観点を作って事前に考えさせる
例）
①作り方の工夫について　②土づくりの工夫について
③収穫について　④農家の方の思いについて

p.40，41

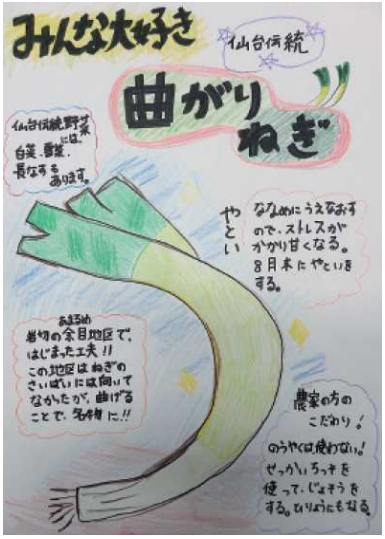
◎ 野菜作りの工夫を調べよう

・農家の方へのインタビューを通して，さらに調べたくなったことを挙げさせ，調べていく。
・地区の生産物について調べる。
・給食のリサイクルについて，写真を見て理解させる。
・生ごみ減量のために仙台市がどのような活動を行っているか触れる。

まとめる

◎ 調べたことをまとめて発表しよう

・作製にあたっては，農家の見学や調べ学習で分かったことを生かしたり，写真を使ったりするよう指導する。
・お世話になった農家の方にも見せるようにし，相手意識を持って作製させたい。
・地元の野菜を使った新しい特産物を考えるなど，児童の工夫を生かして活動をさせても良い。



教科書の活用

○　教科書では，見学の仕方について，「かんさつする」「しつもんする」「ふれる」「きろくする」と分けて具体的に記されているので活用したい。
○　教科書でも，仙台曲がりねぎづくりの工夫について詳しく記されているので，併せて活用したい。

p. 38, 39	大単元名	2　仙台市の人々の仕事	小単元名	②選択Ｂ　わたしたちのくらしと農家の仕事

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは，農家の仕事の特色や他地域との関わりを調べ，それらの仕事に携わる人々の工夫を考えることである。地域の人々の生活を理解する上で欠かせない視点の一つは，生産と消費である。ここでは岩切地区を取り上げているが，学校から近い農家を見学し，その地区の生産物を調べるとよい。

写真「仙台伝統野菜」

仙台の気候や風土に適した野菜として古くから栽培されてきたもの。

他にも，仙台芭蕉菜，仙台長なすなどがあり，児童の関心を高めるために取り上げたい。

本文「やとい」

岩切地区は，地下水位が高く，ねぎの栽培には不向きであった。しかし，このデメリットを逆手にとって生まれたのが「曲がりねぎ」である。

先人の知恵と努力や，地域の農家の工夫を取り上げたい。

学習課題

作り方や土づくりの工夫など，次ページの観点とリンクさせて学習問題を設定させるとよい。

p. 40, 41	大単元名	2　仙台市の人々の仕事	小単元名	②選択Ｂ　わたしたちのくらしと農家の仕事

写真「野菜市」

生ごみ減量のために，仙台市がどのような活動を行っているのかを発展的に調べるのもよい。

写真「発表しよう」

農家の方の仕事が自分たちの生活を支えていることを確認しながら，まとめる活動をさせたい。

写真「給食のリサイクル」

循環型農業と給食の関係を分かりやすく示すための図。生ごみ処理機がない学校では，コンポストや家庭用生ごみ処理機など，家庭で行っている生ごみの堆肥化について触れるとよい。

本文「農家の方の話」

ここでは販売の工夫について話している。消費者のことを考えて販売の方法を工夫しているところを読み取らせる。

小単元名 p.42～47	①古い道具と昔のくらし	小単元の目標	古くから残るくらしに関わる道具や，それらを使っていた頃のくらしの様子を調べ，地域の人々のくらしの変化や人々の願いを考えるようにする。

つかむ

p.42

◎古い道具を探してみよう。

・昔の道具や，その頃の人々のくらしの様子について，関心を持たせる。
・学校の資料室や地域にある古い道具を見たり，使ったりする活動を取り入れたい。
・身近に道具がない場合は，p.44 の写真の一部を拡大コピーするなどして，提示する。

この道具は何につかったのかな？

昔の道具を使ってどんなくらしをしていたのかな？

学習問題
古い道具を使っていたころの人々のくらしは，どのような様子だったのでしょうか。

調べる

p.43～45

◎昔の道具を調べてみよう。

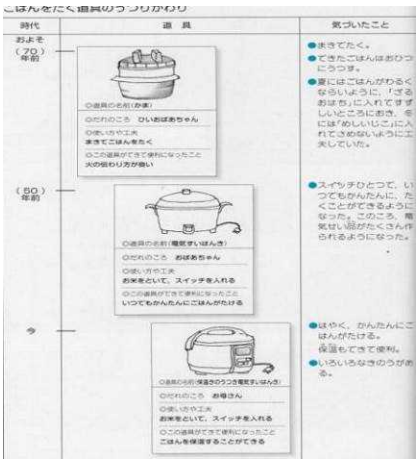
・歴史民俗資料館の見学をする。
　活動の見通しを持たせる。※p.43上段
　（資料館での体験活動等も可能）
・分かったことをメモするカードを用意する。
　※p.44のカードの例，調べるポイント
・ホームページの活用　※p.43下段
・地域に昔のくらしについて話をしてくれるゲストティーチャーがいれば話を聞く活動を取り入れてもよい。※p.45，p.47

p.46

◎調べたことをまとめてみよう。

・どのような道具が，どのように使われていたのか，どのような工夫があるか等について調べ，カード等にまとめる。
・個人で調べたことを基に，個人，またはグループで道具年表をつくる。※p.46
・年表にまとめる作業を通して，道具の移り変わりの様子や，昔の人の知恵や工夫に気付かせたい。

道具年表の例



まとめる

p.46

◎ 道具を工夫し，くらしをかえてきた人たちは，どのような願いをもっていたのでしょうか。

・これまでの学習を振り返り，道具やくらしの変化の様子について話し合う。
・道具を使ってきた人々の工夫や，願いについて話し合う。

教科書の活用

○　昔の人のくらしの様子について予想したり，疑問を持たせたりする場面で，挿絵を利用する。
○　道具メモ（調べて分かったことを書くカード），まとめの年表の例から，調べたりまとめたりする学習に見通しを持たせたい。
○　インタビューの仕方から，見学の際のルールやマナーを身に付けさせたい。

p. 42, 43	大単元名	３ かわってきた人々のくらし	小単元名	① 古い道具と昔のくらし

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは，古くから残るくらしに関わる道具と，それらを使っていた頃のくらしの様子を見学したり調査したりして，人々の知恵や工夫に気付かせ，人々の努力によって生活が大きく変化してきたことを考えさせることである。地域の博物館や資料館見学，お年寄からの聞き取りなど，直接体験を多く取り入れるよう配慮するとともに，体験から得たことや調べたことを年表にまとめるなど，表現活動も取り入れるとよい。

昔の道具

《どんな道具がよいか》

① 日常生活の道具で，意外性や驚きを感じるなど，児童が関心を持てる道具。

② 知恵や工夫が分かる道具。

③ 同じ用途の今の道具とつながりが分かる道具

例えば，右ホームページ「こどもはくぶつかん」には，次のような新旧１０組の道具が登場する。

・あんどん　（電気スタンド）
・肌っこ　（シャツ）
・羽釜　（電気炊飯器）
・火鉢　（石油ストーブ）
　（ファンヒーター）
・火のし　（アイロン）
・ほうろく　（フライパン）
・石うす　（ミキサー）
・サイカチの実（石けん）
・石ばん　（ノート）
・つまごわらじ（くつ）

仙台市歴史民俗資料館

大きく三つのテーマ別資料館がある。

・「農村のくらし」
・「町場のくらし」
・「旧陸軍歩兵第四連隊コーナー」

他に体験学習室等も常設している。

≪体験できるもの≫

折り紙，双六，チャカポコ，お手玉，けん玉等の伝承遊び

≪事前に連絡しておくことで可能な体験≫

「石うすによる粉ひき体験」
「行灯（あんどん）の明るさ体験」
など

＊情報コーナー「主な見学場所」

仙台市歴史民俗資料館	295-3656
仙台市戦災復興記念館	263-6931
東北歴史博物館	368-0101

ＨＰ「こどもはくぶつかん」

小学校中学年の児童でも，楽しく展示に関する予備知識が持てる。資料館に行って調べたいという意欲付けとなる内容である。

p. 44, 45	大単元名	３ かわってきた人々のくらし	小単元名	① 古い道具と昔のくらし

絵カード

見学前に，衣食住など暮らしに関する道具の移り変わりについて，調べる計画を立てさせる。

・ごはんを炊く道具の移り変わり
・冷蔵庫の移り変わり
・暖房の移り変わり
・電話の移り変わり
・洗濯をする道具の移り変わり
・遊び道具の移り変わり

絵カードを利用して，児童が調べて分かったことを書きこむことができるようにする。

写真

「昔の台所」のようす
「近所で集まりもちつき」

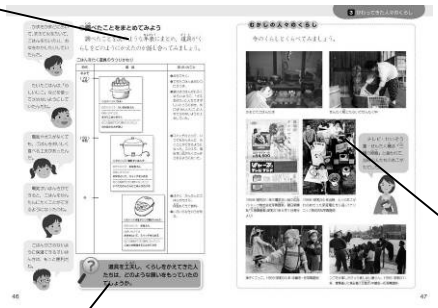
地域のお年寄りの話を聞いたり，昔の写真を持ち寄ったりして，こうした道具を使っていた頃のくらしの様子について話を聞かせたい。また，道具を使ってきた人々の思いを考えさせたい。

写真

・めしいじこ→寒い季節に，炊きあがったご飯を保温できるように，おひつごとこの中に入れた。
・箱膳→箱の中に，飯椀，汁椀，小皿，箸などが入っていて，各自が一式持っていた。食べ終わったらお湯ですすぎ，そのまま箱にしまう。
・手回し洗濯機→1955 年頃に電気を使わない洗濯機として売り出された。

p. 46, 47	大単元名	3 かわってきた人々のくらし	小単元名	① 古い道具と昔のくらし

年表
「ごはんをたく道具のうつりかわり」
　作成した絵カードをそのまま生かせるよう工夫させるとよい。
・模造紙に絵カードを貼る。
・紙芝居を作る。
・絵カードをつなぎ，使用していた時期を書き込む。
・折りたたみ式にする。
　など。



学習課題
　調べたことを年表にまとめた後，それぞれの作品を比べ，人々の生活の移り変わりについて見付けたことや考えたことを話し合う活動を行うとよい。
　人々の知恵や工夫に気付き，「現在の自分たちの生活は，祖先の努力の上に成り立っている。」という歴史的な背景に関心を持たせることも大切である。

※何年くらい前の道具なのかを記入させ，年代による移り変わりを意識させる。地域の高齢者が子どもの頃，父母が子どもの頃，現在の３つの時期を扱うと良い。

写真「むかしの人々のくらし」
　本ページは，昔の日常生活の様子が具体的に分かるように構成した。
　生活の場面では，ご飯炊きと洗濯を取り上げた。子供たちが遊ぶ場面では，海賊ごっこと紙芝居を取り上げた。
　また，「三種の神器」と言われたテレビ・電気冷蔵庫・電気洗濯機の広告を掲載した。
　当時の人々の服装や使っている道具などと，今の生活との違いにも気付かせたい。併せて，当時の電気製品がいかに高価であったのかについても補足するとよい（当時の大卒初任給は約15,000円）。

小単元名 p.48～53	**②のこしたいもの， つたえたいもの**	小単元の目標	自分たちの生活の中に残る歴史に関心を持ち，昔から地域に伝わる年中行事やお祭りなどを調べ，地域の人々の願いについて考えるようにする。

つかむ

p.48

◎ 地域に古くからのこっているものには，どのようなものがあるでしょう。

・地域にある古いものに目を向けさせる。古くから残る建物，昔から続く祭り，地域に伝わる伝統芸能など，地域に古くから伝わるものを取り上げる。

・p.50~51 の「仙台歴史じまん」，p.52～53 の「仙台に伝わる年中行事」を参考に，地域に残る古いものに目を向けさせても良い。

古くから残る建物はどのように守られてきたのだろう？

このお祭りは，なぜ今まで続いてきたのかな？

学習問題

地域に残る古いものや祭り，年中行事には，人々のどんな願いがこめられているのでしょうか。

調べる

p.48

◎ 地域に残る古いものを調べてみよう。

・ガイドブックや図書資料，webなどを使って調べる。

・できれば見学や，保存に携わる人から話を聞く活動を取り入れたい。難しい場合は，教師が聞き取ったことを，資料に加工することも考えられる。

・分かったことをメモすることができる，カードなどを用意したい。

※p.49　メモの取り方　参照

・見学の際には写真をとっておき，まとめに活用したい。

p.49

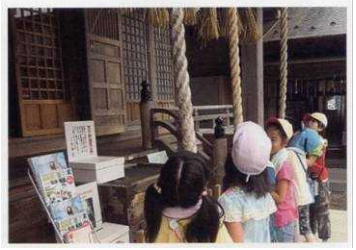
◎ 調べて分かったことを発表しよう。

・分かったことをもとに，個人やグループで新聞にまとめることもできる。

・発表は，写真等を使いながら，より分かりやすく伝えることを心がける。

・発表を通して保存に携わった人々の願いや，伝統を引き継いできた人々の願いに気付かせたい。

写真の活用



まとめる

p.49

◎ 地域につたわる古いものには，どのような願いがこめられているか考えよう。

・調べたことを生かし，地域に残る古いものにどのような願いがこめられているか考えさせる。

・地域に残る古いものを，未来にどのように受け継いでいくのか考えさせたい。

教科書の活用

○　「ことば」や「まなび方コーナー」を参考にさせ，どのようにまとめたら良いか見通しを持たせたい。

○　単元のまとめとして，地域に残る古くから伝わるものをカルタにまとめる活動が例示されている。学習したことを生かして，児童が意欲的に表現できる活動として参考にしたい。

p. 48, 49	大単元名	3　かわってきた人々のくらし	小単元名	②　のこしたいもの，つたえたいもの

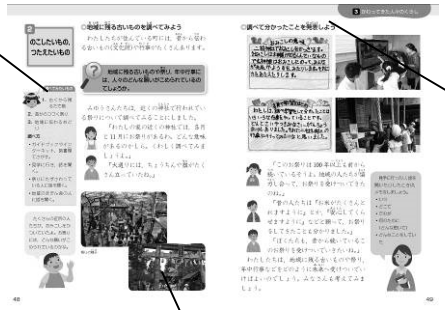
【小単元の指導に当たって】

本小単元は，地域に残る文化財や年中行事を見学・調査したり，調べたことをマップにまとめたりする活動を通して，生活の安定と向上に対する地域の人々の願いや，保存・継承するための工夫や努力を考えることができるようにすることをねらいとしている。地域に十分な調べ活動ができる素材がある場合には，ぜひ積極的に活用したい。P50～51 の「仙台歴史じまん」，P52～53 の「仙台に伝わる年中行事」の資料を活用したり，青葉まつりや七夕への参加経験などを話し合ったりして，人々の願いについて考えさせることも可能である。

「調べてみたいもの」

有形・無形を問わず，文化財の保存に取り組む人々の努力が見られる。また，年中行事にも，地域の生産活動や町の発展，人々のまとまりなどへの願いがみられる。

素材としては，人々の願いが児童にとらえやすいものを取り上げることが望ましい。



カード「調べて分かったこと」

新しくできた団地にある学校でも，団地ができる以前の学区を「地域」として捉え，観察や調査活動に取り組ませると良い。

その後，壁新聞作りなどの表現活動を行わせる。記事を書く用紙などは，事前に教師が準備しておくとスムーズである。

観察活動の際に撮影させた写真，話を聞いた人の顔写真，人々の願いを書き入れたカードなどを基にまとめさせるとよい。

写真「お祭りの様子」

児童にとって身近な文化財や年中行事に視点を当て，「古いもの調べ」への意欲を喚起させる。

p. 50, 51	大単元名	3　かわってきた人々のくらし	小単元名	②　のこしたいもの，つたえたいもの

子供たちも受け継いでいる市内の主な民俗芸能（地図上は赤の印）

昭和 63 年の合併以来，仙台市は全国的にも類を見ない民俗芸能の宝庫といえる大都市となった。

《神楽》

古くからの延命長寿，悪霊退散，そして五穀豊穣を祈ってきた神事芸能である。我が国で最もポピュラーな民俗芸能である。

《田植踊》

東北地方では，年の始めにその年の豊作を祈って田の神にあらかじめ祈願をしておくという田遊びの神事が各地にあった。仙台の田植踊の舞降りの美しさは全国的に定評がある。

《鹿踊，剣舞》

「ししおどり」「けんばい」と読む。

共に念仏踊が変化した踊りで，盆の時期に集落の各戸を踊り歩いていた。仙台の鹿踊は，どこの組にも鹿にまつわる由来話をもち，鹿供養から転じて先祖供養や病魔退散，五穀豊穣を祈願した。鹿踊と剣舞はほとんど一対になって伝承されている。「仙台市文化財パンフレット」

仙台市内の主な古い建物（地図上は青の印）

仙台市内には，多くの古い建造物がある。地図には，その一部を記載した。

なお太白区は，名取川を中心にして，縄文・弥生の時代からの遺跡が，仙台で最も多い区である。

今回載せていない宮城野区も，遺跡が多い。平安の昔から宮城野区は都人のあこがれの地であり，古代・中世・近世の遺跡が多い。

《宮城野区》東光寺・青麻神社など

※遺跡に関する問い合わせ・出前授業の依頼等は
教育局文化財課　整備活用係
℡022-214-8893
http://www.city.sendai.jp/manabu/bunkazai/index.html

p.52,53	大単元名	３ かわってきた人々のくらし	小単元名	② のこしたいもの，つたえたいもの

仙台に伝わる年中行事

地域に，伝統的な祭りや年中行事が特にない場合は，自治会や商店街主催の祭りや行事を扱うことも考えられる。実際に行事に参加できない場合は，博物館や図書館で調べたり，関係者に聞き取りに行ったりする活動が考えられる。

〈調べる内容〉
- 祭りや行事の時期，参加者，目的，特徴
- 祭りや行事に込められた願い
- 祭りや行事の保存，存続に努力している人々の思いなど

年中行事に関して，調べたことをまとめるだけでなく，地域で行われる練習会等に参加するなど，地域との結び付きを大切にする。

七夕かざりの七つ道具
- 短冊→学問や書道の上達
- 紙衣→病気や災難の厄除け
- 折鶴→家内安全・健康長寿
- 巾着→商売繁盛
- 投網→豊漁・豊作
- くずかご→清潔と倹約
- 吹き流し→織姫の織糸の象徴

《仙台青葉まつり》５月

江戸時代に始まった東照宮の祭礼「仙台祭」が由来。

明治８年政宗公没 250 年祭，昭和 10 年の 300 年祭で盛んになった。その後途絶えたが，昭和 60 年に市民の祭りとして復活した。仙台城築城の折に石工たちが踊ったという言い伝えもある「すずめ踊り」も，昭和 62 年より青葉まつりで踊られるようになった。

《夏越祭》６月

昔，「茅の輪を腰につけると，疫病を免れる」という伝説があった。これにちなみ「茅の輪」を門口にはれば災厄を免れるという信仰が生じた。現在は，鳥居や社門に掛けられるようになった。古歌を唱えつつ，八の字状に３度くぐり抜けると体のすみずみまで清められ，災厄を免れると伝えられている。

小単元名 p.54～57	地図帳を開こう	小単元の目標	都道府県の名称や形，地図に示されている地名を，地図帳を使って調べたり，地図記号や等高線の意味を理解したりすることができるようにする。

p.54

◎ 地図帳で遊ぼう。

・「県名おもしろクイズ」から，地図帳や都道府県名に興味・関心を持たせる。

・「都道府県シルエットクイズ」から，都道府県の形に興味・関心を持たせる。

つかむ

都道府県にはいろいろな名前や形があっておもしろいね。

地図帳を使って，もっといろいろなことを調べたいな。

学習問題

地図帳のいろいろな使い方を調べよう。

調べる

p.55

○ 仙台市をさがそう。

・ 索引の番号や記号の意味を知り，地名を探す。

○ 地名さがしゲームをしよう。

・ 索引を使って地名を探すゲームを行い，索引の使い方に慣れる。

○ 地図帳のいろいろな使い方を調べよう。

・ 索引以外から調べられるクイズを行い，地図帳のいろいろな使い方を知る。

p.56

○ 地図記号ビンゴで遊ぼう。

・ 地図記号をビンゴカードに書いたり，地図記号を読んだりする活動を通して，地図記号の意味を理解させる。

・ 地図帳に示されている地図記号を読み取らせ，地図記号から土地利用の様子が分かることを理解させる。

まとめる

p.57

○ 等高線について学ぼう。

・ 等高線，断面図の色分けを行い，土地の高さや斜面の様子を表していることを理解させる。

※ 地図帳に慣れ親しむ活動を継続的に行い，地図帳の使い方を理解させる。

例） ・地名探し

・都道府県を紹介するスピーチ

・旅行などで行った場所を白地図に示す

※宮城県の位置について，具体的に周囲の県名や所属する地方名で表現できるようにさせる。また，場所については，白地図を活用して捉えさせるようにする。

・「宮城県は，東北地方にあり，北は岩手県，秋田県，西は山形県，南は福島県に接しています。東は太平洋に面しています。」

＜押さえること＞

地図帳の使い方を理解している

教科書の活用

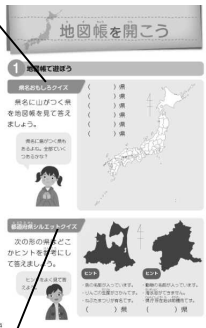
○ 地図帳の使い方に慣れる活動を継続しながら，各小単元において，教科書や副読本に示されている，地図に関する内容を取り上げて確認する。特に，「まなびかたコーナー」では，地図帳の活用や等高線，地勢図，土地利用図の読み取りなどが紹介されている。

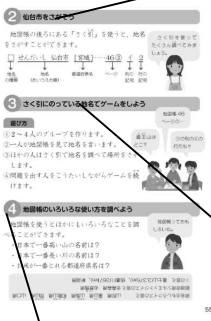
p.54,55	大単元名	地図帳を開こう	小単元名	１ 地図帳で遊ぼう　２ 仙台をさがそう ３ さく引にのっている地名でゲームをしよう ４ 地図帳のいろいろな使い方を調べよう

【小単元の指導に当たって】

本小単元は，４年生の学習に必要な地図の見方を，クイズやゲームを通して身に付けさせる内容となっている。ここでは，地図帳の使い方についても取り上げ，社会科の学習に役立てることができるようにすることがねらいである。指導に当たっては，３年生で学習したことを想起させながら，基礎・基本を押さえさせたい。

クイズ「県名おもしろクイズ」
　このほかにも，動物の名が入った県や海水浴ができない県など，児童が興味を持てる課題をクイズとして取り上げるとよい。





本文「仙台市をさがそう」
　地図帳索引の引き方を参考に指導する。その後，仙台を探す活動を行う。

本文「さく引にのっている地名でゲームをしよう」
　慣れてきたら，世界地図なども活用させたい。また，自主学習の課題に取り入れることも考えられる。

クイズ「都道府県シルエットクイズ」
　三つのヒントを準備して県名を当てさせる方法もある（シルエットなしでもよい）。

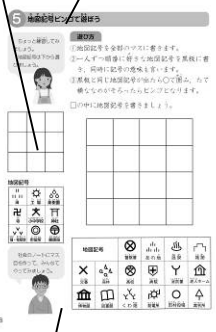
本文「地図帳のいろいろな使い方を調べよう」
　地図帳にはたくさんの情報があることを知らせ，ゲーム等を紹介し，楽しく学ばせる。

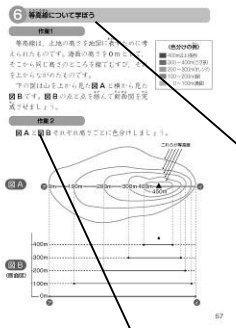
p.56,57	大単元名	地図帳を開こう	小単元名	５ 地図記号ビンゴで遊ぼう ６ 等高線について学ぼう

ビンゴ「９マス編」
　ゲームに慣れさせるために，最初に行うとよい。
　地図記号はマスの下から選ばせる。

本文「地図記号ビンゴ」で遊ぼう
　遊び方を全員で確認してから行わせる。慣れてきたら，朝自習や休み時間にも取り組ませるとよい。

※ビンゴ「９マス編」には，基本的な地図記号が集めてある。このページを印刷するなどして，何度か取り組ませた上で，「１６マス編」に取り組ませると効果的である。





作業１
　最初に，図Ｂに高さごとに色分けする。
　次に図Ａを色分けすることで，地図を立体的にイメージできるようにする。

ビンゴ「１６マス編」
　地図記号の一覧には博物館や図書館，老人ホームなど最近できた記号も取り入れている。授業の中で触れるとよい。

作業２
　図Ｂを基に傾斜が急な方はどちらかを確認させる。
　そこから等高線との間隔が広いほど傾斜が緩やかで，狭いほど傾斜が急であることを理解させる。

小単元名 p.58～60	①選択Ａ 火事から くらしを守る	小単元の 目標	火災からくらしを守る取組を調べ，わたしたちが安心して生活できるようにするための関係機関の働きと，そこで働く人々の工夫や努力を考えるようにする。

つかむ

p.58

◎火事が起きたら−学校の消防設備

・写真やVTRを活用し，火事の恐ろしさに目を向けさせるとともに，身近な消防設備を調べさせることによって，小単元の学習への関心を高める。
・学校にある消防施設や設備の写真を教師があらかじめ撮っておき，名前や場所をクイズ形式で子供たちに質問する方法も考えられる。

学校が火事になったら，だれがどうやって消すのかな？

消防署の人たちがどんな仕事をしているのか調べてみたいな！

学習問題
火事から人々のくらしをまもるための消防署の仕組みについて調べましょう。

調べる

p.59

◎ いざというときのために
ー消防署の取組ー

〈消防署の見学〉
どんなことを見たり，聞いたりするか，見学の前に子供たちに決めさせておく。

〈事前指導の内容〉
準備物
見学の視点や質問の内容
挨拶や話の聞き方
「見学カード」への記入の仕方
インタビューの仕方

※消防署の見学が実施できない場合は，教科書や副読本，ｗｅｂなどの資料を活用して調べ学習に取り組ませる。

p.60

◎ 火事をふせぐためにできること

火事を防ぐための消防署や地域の人々がどんな努力をしているのか調べる。

〈消防団について〉
消防団の取組について説明し，地域にも安全を守っている人がいることに気付かせる。可能であれば，消防団の人を招いて直接話を聞くとよい。

※情報コーナー

仙台市消防局	２３４－１１１１
青葉消防署	２３４－１１２１
宮城野消防署	２８４－９２１１
若林消防署	２８２－０１１９
泉消防署	３７３－０１１９
太白消防署	２４４－１１１９

まとめる

p.60

◎ 標語を考えたりポスターを作ったりしよう

・学習したことをもとに，自分たちにできる防火の取組を考え，発表させたり，標語やポスターで表現させたりする。
・防火につながるキーワードを発表させ，それをつなぎ合わせてクラス標語を作る活動なども考えられる。

教科書の活用

○　見学のまとめの活動は，自分たちが調べてきたことだけでなく，教科書と副読本も活用しながら取り組ませたい。特に，火事が起きた時の連絡の仕組については，教科書を使って確認させることで，理解を深めることができる内容である。

p. 58, 59	大単元名	4　くらしを守る	小単元名	①選択Ａ　火事からくらしを守る

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは，関係の諸機関が連携して消火や救助に当たるなど，一刻を争って事態に対処していることに気付き，自分の生活と関連付けながら，防火に対する意識を向上させ，実践的な態度を養うことである。導入段階では火事の恐ろしさに目を向けさせる。次に，身近な防火設備を調べることによって，計画的な防火対策を行っていることに気付かせる。学習活動に消防署見学を取り入れるとよい。

写真「火災・消火活動」
写真や VTR で火事の恐ろしさを捉えさせるとともに，消火活動を行う消防士に着目させることで，消防の仕事について関心を持たせる。

写真「学校の消防せつび」
クイズ形式になっている。興味・関心を持たせた後，学校にもこのような施設があるか調べさせる。校舎配置図などを提示し，まとめさせる。

本文「教科書で調べてみました」
連絡の仕組みについては，教科書でも学習できる。
なお，仙台市では青葉消防署に消防情報センター（通信指令室）がある。

※情報コーナー

消防探検　京都市消防局
http://www.city.kyoto.lg.jp/shobo/

かすがいしのしょうぼう（子ども向け）
http://www.city.kasugai.lg.jp/

写真「訓練の様子」
火事が起きたときを想定し，普段から訓練していることに気付かせる。
※消火→濃紺　救急→灰色
救助→橙色と仕事の内容によって制服の色が決まっている。

「消防士さんの話」
いち早く現場に駆けつけるための努力に気付かせる。

※情報コーナー

仙台市消防局	234-1111
火災情報テレホン	234-0119
青葉消防署	234-1121
宮城野消防署	284-9211
若林消防署	282-0119
泉消防署	373-0119
太白消防署	244-1119
宮城消防署	392-8119

p. 60	大単元名	4　くらしを守る	小単元名	①選択Ａ　火事からくらしを守る

写真「防災訓練」「火災予防運動」
各団体に出向き，火災予防に対する指導を行ったり，市民に対する広報活動を充実させたりして，火災を防ぐ取組をしていることを理解させる。

本文「消防団の人の話」
消防団について説明し，地域にも安全を守っている人がいることに気付かせる。また，可能であれば消防団の人を招いて話を聞くとよい。

＜消防団について＞
普段は別の職業で活躍している人たちが，地域で災害が発生すると消防団員として災害活動に当たる仕組みになっている。
仙台市の消防団は市内の消防署ごとに設置され，7 消防団，約 2,000 人の消防団員で構成されている。うち，女性消防団員は約 100 人である。

写真「みんなが考えて作った防火ポスター」
調べたことや学習したことを基に，自分たちにできる防火の取組を考え発表させたり，標語やポスターなどで表現させたりする。

小単元名 p.61～65	①選択Ｂ 地震からくらしを守る	小単元の目標	地震(津波)からくらしを守る取組を調べ，わたしたちが安心して生活できるようにするための関係機関の働きと，そこで働く人々の工夫や努力を考えるようにする。

つかむ

p.61

◎ 東日本大震災

・写真や新聞記事を活用し，地震（津波）の恐ろしさに目を向けさせ，小単元の学習への関心を高める。
・大震災によってどんな被害を受けたか，人々の生活にどんな影響があったかなどを，子供たちに話し合わせる方法も考えられるが，現在も心のケアが必要な児童がいることを考え，十分に配慮して授業を行う。

大きな地震で，わたしたちも被害を受けました。

地震や津波に備えてどんな準備をすればいいのかな？

学習問題
東日本大震災によって，どのようなことが起きたのでしょうか。

調べる

p.62

◎ 地震が起きたとき…

仙台市役所を中心とした地震が起きた時の連絡の仕組みについて説明することで，関係機関が協力して救助・復旧作業に当たっていることを捉えさせることができる。

破損した水道管やガス管などの復旧工事には，兵庫県や新潟県をはじめ，全国からの応援があった。

p.63

◎ 地域の協力

災害時に備え，町内会では自主防災組織を作り物資の備蓄や訓練などを行っている。

p.63

◎ 救助・救援活動

地震が発生した後には，自衛隊員や消防署員，水道局・ガス局の人など，たくさんの人たちが救助や救援，復旧工事に取り組んだ。また，全国から多くの人たちがボランティアとして応援に駆けつけた。

p.64

◎ 地震に備える

地震からくらしを守るために，学校や地域，仙台市で行っている取組（避難訓練，防災訓練，備蓄倉庫等）について調べ，まとめる。

p.65

◎ わたしたちにもできることを

市内各小中学校で行われている「復興プロジェクト」の取組について取り上げる。また，災害が発生した際に，自分たちにできることは何かを新防災教育副読本とも関連させながら，考えさせる。

まとめる

p.64

◎ 家族防災会議を開こう

・家族で防災のための取組としてどんなことを話し合ったかを発表し合い，災害への備えとして何が必要かを全体で話し合う。

教科書の活用

○ まとめの活動として教科書 30～31 ページの「市や地いきの取り組みをまとめる」に取り組ませることが考えられる。また、仙台市の新防災教育副読本と併用して学習することも可能である。

p. 61	大単元名	4　くらしを守る	小単元名	①選択Ｂ　地震からくらしを守る

巨大地震（東北地方太平洋沖地震）の概況

○発生日時
　平成 23 年 3 月 11 日　14:46
○震央地名
　三陸沖
○規模
　マグニチュード 9.0（暫定値）
○市内震度
　震度６強（宮城野区）
　震度６弱（青葉区，若林区，泉区）
　震度５強（太白区）
○津波
　太平洋岸に大津波警報発令
　津波の高さ 7.2m（推定）
　　※詳細は仙台市発表資料を参照

写真「市内西部の団地」（青葉区）
　丘陵地域の宅地で，崩落・地滑り等が発生した。
　※昭和 30 年代後半～40 年代に造成

新聞「震災１ヶ月　死者１万 3013 人」
　新聞社では災害時などを想定し，緊急時新聞相互支援協定を締結している。河北新報社も震災当日，紙面制作システムが動かせない事態となり，新潟日報社に号外と翌日の朝刊の紙面制作を依頼し，新聞の発行を続けた。

p. 62, 63	大単元名	4　くらしを守る	小単元名	①選択Ｂ　地震からくらしを守る

図「地震が起きたときの連絡の仕組み」
　仙台市を中心とした取組を調べる。関係機関が協力して救助・復旧作業に当たっていることを捉えさせたい。

本文「連合町内会長さんの話」
　災害時に備え，町内では防災組織を作り，物資の備蓄や訓練などを行っていることを捉えさせる。また，災害発生時には地域の協力が不可欠であることを知らせ，自分たちにもできる活動があることに気付かせたい。

写真「他県から給水車が応援」
　20 大都市は，災害が発生し被害を受けた都市独自で応急措置が不可能な場合，被災都市の要請に応える協定を結んでいる。これは，被害を受けていない都市が，友愛的精神に基づき，相互に救援協力し，被災都市の応急対策及び復旧対策を円滑に遂行するために締結された協定である。

〈20 大都市とは〉
　札幌市，仙台市，さいたま市，千葉市，東京都，川崎市，横浜市，相模原市，新潟市，静岡市，浜松市，名古屋市，京都市，大阪市，堺市，神戸市，岡山市，広島市，北九州市，福岡市

写真
　食料品や日用品の買い出しや給水車の出動，自衛隊による病院の開設など，震災後の様子を振り返る際の参考にさせたい。

本文「多くの人たちが働いてくれました」
　市民のために，多くの人たちがそれぞれの立場で働いていたことに気付かせる。また，その人たちの思いにも触れていきたい。

p. 64, 65	大単元名	4　くらしを守る	小単元名	①選択Ｂ　地震からくらしを守る

吹き出し「防災訓練に参加しています。」

地域の一員として自分たちに何ができるのか，防災教育と関連させながら考えさせていきたい。

本文「わたしたちにもできることを」

避難所では，多くの小中学生が避難所運営の手伝いなどを進んで行った。実際に活動したり，その様子を見たりした経験を基に，自分たちにもできることを話し合わせたい。

また，市内各小中学校で行われた「復興プロジェクト」についても取り上げたい。

本文「仙台市地域防災計画」

仙台市の地域防災計画には，津波に対する備えの充実，市民による減災，避難体制・避難所運営体制，災害時要援護者，帰宅困難者対策，物資対策などが定められている。

トピックス〈むかしからの言い伝え〉

市内や県内には，先人たちが残した津波に関する言い伝えや，歴史を今に伝えるものなどが多く。

浪分神社や蛸薬師もその一つである。地域に言い伝えがあれば，児童と共に調べたい。

本文「家族防災会議を開こう」

地震に備えるためには，家族で話し合って避難場所や連絡の取り方などを決めたり，定期的に持ち出し品などを確認したりすることが大切である。

仙台版防災教育副読本の小学校４・５・６年 p. 40～41 を活用して実際に，家庭で話合いをさせて自助の姿勢を育てたい。

小単元名 p.66～69	②事故や事件から くらしを守る	小単元の 目標	事故や事件からくらしを守る取組を調べ，わたしたちが安心して生活できるようにするための関係機関の働きと，そこで働く人々の工夫や努力を考えるようにする。

つかむ

p.66

◎ 事故や事件から人々を守る。

・写真を活用して地域の安全を守るための取組について発表し合い，小単元の学習への関心を高める。

・「まもらいだー」の方や地域にある交番の警察官などをゲストティーチャーとして招き，話を聞くという活動も考えられる。

事件や事故が起きてしまったら，どうすればいいのかな？

警察署の人たちがどんな仕事をしているのか調べてみたいな！

学習問題

わたしたちが「安全」に「安心」してくらせる仕組みを調べましょう。

調べる

p.67

◎ 交通事故をふせぐために

〈仙台市の交通事故の数〉―グラフ―

・グラフから交通事故の件数やけがなどをした人の数が減ってきていることを読み取りその理由を調べたり，考えたりする。

〈交通管制センターの見学〉

・宮城県警察本部内にある施設で，１１０番を取り扱う通信司令室に併設しており，併せて見学できるようになっている。

〈交通事故の時の連絡の仕組み〉

・前小単元の学習と関連させながら，県警察本部を中心にいろいろな役割を持った人たちが協力して事故を処理していることに気付かせるようにする。

p.68

◎ 事件をふせぐために

・事件を防ぐための警察署や地域の人々の取組について調べる。

〈仙台市のあきすの数〉―グラフ―

・空き巣の件数が平成21年に比べて減少していることをつかませ，事件を防ぐ取組について調べたり，考えたりする。

・自分たちが住んでいる地域にも，「防犯ボランティア」や「こども110番の店」「交通指導隊」など，まちの安全を守るための取組があることを紹介する。

＊情報コーナー

宮城県警察本部 221-7171

http://www.police.pref.miyagi.jp/

まとめる

p.69

◎ 安全に安心してくらせるまちに

・まちの安全を守るために，自分たちにできることは何かを大単元で学習したことを生かして考えさせたい。表現活動としては，防犯標語やポスターづくり，安全安心マップの製作などの活動が考えられる。

教科書の活用

○ 教科書には，「仕事さがしメモ」や学習のまとめ方，「まちの安全マップづくり」などついて紹介されている。子供が問題解決的な学習をする際の参考にさせたい。

p. 66, 67	大単元名	4　くらしを守る	小単元名	② 事故や事件からくらしを守る

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは，地域社会の人々の安全を守るための関係機関の働きに気付き，従事している人々，地域の人々の工夫や努力を理解することである。導入段階でゲストを招くなどの工夫をし，地域の安全を守っている人々の取組を調べる学習課題を設定する。前小単元との関連を図りながら，身近な生活から「安全」について考えさせていく。小単元のまとめの段階では，学区内の「安全安心マップ」作りなどの活動を取り入れるとよい。

写真
写真を基に話し合わせ，自分たちのまわりには，安全を守る人がいることに気付かせる。

グラフ「交通事故の数」
交通事故はなかなか減らないことを読み取り，事故を防ぐ取組が必要なことに気付かせたい。

写真「白バイ・パトカーのパトロール」「区民まつりでの呼びかけ」
市民に対する広報活動を充実させ，交通事故を防ぐ取組をしていることを理解させる。

キャラクターの吹き出し
ここでは二人の会話から警察署の仕事に絞り込んでいくようにする。

図「交通事故の時の連絡の仕組み」
＊人身事故のときの対応例
県警察本部を中心とした事故発生時の連絡の仕組み，関係諸機関の協力に気付かせる。
また，事故に素早く対応するための工夫についても気付かせる。

写真「宮城県交通管制センター」
宮城県警察本部内にあり，仙台市内及び周辺の信号機を制御している。車両感知器やテレビカメラを通して道路の渋滞状況が分かるようになっている。
110 番を取り扱う通信司令室に併設しており，併せて見学が出来るようになっている。

＊情報コーナー＊

宮城県警本部	221-7171
http://www.police.pref.miyagi.jp/	
泉警察署	375-7171
仙台北警察署	233-7171
仙台中央警察署	222-7171
仙台東警察署	231-7171
仙台南警察署	246-7171
日本道路交通情報センター	050-3369-6666

p. 68, 69	大単元名	4　くらしを守る	小単元名	② 事故や事件からくらしを守る

グラフ「あきすの件数」
空き巣の件数は平成 21 年から，減少している。事件を防ぐための取組に目を向けさせるための資料とする。

学習課題「安全に安心してくらせるわけを考えてみましょう」
大単元を通して考えさせるようにした。関係機関で働く人の工夫や努力はもちろん，自分の家族を含めた地域の人も力を尽くしていることを考えられるよう工夫する。
また，安全に暮らすために自分たちが気を付けなくてはならないことなどを考えさせる。

学び方コーナー
算数で学習した棒グラフの読み取りが確実にできるようにする。

図「事件の時の連絡の仕組み」
この図を基に，事件に素早く対応するための工夫について気付かせる。

図「安全安心マップ」
学校周辺を調べ，安全を守る施設や危険箇所などをマップにまとめる活動につなげてもよい。本誌の例は，市民センターや地域のボランティアとの連携による活動である。

小単元名 p.70～77	①選択Ａ くらしをささえる水	小単元の目標	水を確保するためにたくさんの人々が計画的，協力的に取り組んでいることを学び，これから地域の一員として水を大切に使っていこうとする意欲を育てる。

つかむ

p.70～71

◎ くらしのなかの水の使われ方や水がとどく仕組みを調べよう。

・「家や学校，町の中ではどのくらい水をつかっているのかな」など，身近な生活の中から問題意識を持たせるようにする。

・蛇口から出てくる水はどこからやってくるのかを，考えさせる。

・いつでも安心して水が使えることや学校・家庭の水道料金などから，水をきれいにして飲めるようにしている場所があることを予想させる。

マンションの屋上にタンクがあるよね

水ってお金を払うんだよね！

学習問題

家や学校にとどく水は，どこでどのようにして作られ，送られてくるのでしょうか。

調べる

p.72～73

◎ 水をきれいにしているところを調べにいこう。

・学校の蛇口から水の通り道をたどり，学校から浄水場，浄水場からダムまでの流れを見学や資料などから調べさせる。

・課題別にグループを作り調べ，まとめさせる。

・水が届けられるまでの行程に関わる人々の努力や思いにも目を向けさせる。

・見学前に調べ学習で分かることと，見学したり取材したりしないと分からないことをはっきりさせておく。

p.74～76

◎ 送られてくる水が足りなくなることがないか，調べよう。

・使った水の行方や，森やダム，浄水場の関係などを調べさせる。

・図を読み取らせて，水がどのようにして循環しているか，考えさせる。

まとめる

p.76～77

◎ 調べてまとめたことや他のグループの発表を聞いてわかったことから，水の利用の仕方についてできることを考えよう。

・地域の一員として，節水や水の再利用などに関心を持たせ，自分の生活の中で実践することができるような意欲付けを図るようにする。

・調べたり発表を聞いて考えたりしたことを，新聞やポスターなどにまとめて水の有効利用について発信させる。また，節水のキャッチフレーズや標語なども有効である。

教科書の活用

○　いつでも安心して水が使えるようにするための様々な取組があることを知らせることで，くらしをささえている水を作り出す仕組みの重要さを再確認させることができる。

○　日本国内でも水不足になって困った実例があることを学ぶことができる。

○　世界の水利用の事情について学習することができる。

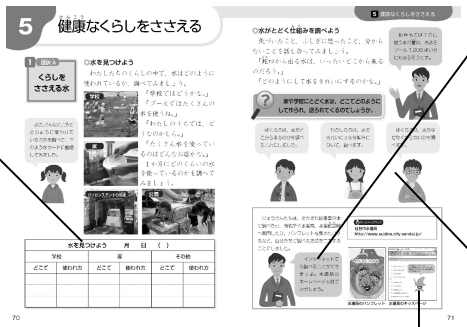
p. 70, 71	大単元名	5 健康なくらしをささえる	小単元名	①選択Ａ くらしをささえる水

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは，人々が健康な生活を営むため，飲料水の安定供給を図る様々な対策や事業が，広く他地域の人々の協力を得ながら進められていることを理解させることである。また，これらに関わる人々の仕事や，節水，水の再利用などに協力している人々の努力にも気付かせたい。これらの仕組みや工夫を，身近な水道施設から調べることを通して，水を大切に使うために自分たちにできることは何かを考えさせることが大切である。

表「水を見つけよう」

身近な「学校」「家」を中心に，その他児童が選んだ場所（固定）を一定期間調べるようにする。表の形式は，各学級の実態によって工夫する。



先生の吹き出し

児童が調べる方法を選択しやすいように，方法を例示している。見学を予定している場合には，見学の目的を明確にし，児童の調べ学習の範囲をしっかりと押さえておく。

3 人のキャラクター

疑問に思ったことを話し合った後，学習課題を設定したい。調べる活動は，複線化して行うことも考えられる。キャラクターの発言を参考にして，調べる内容を決めてもよい。

仙台市水道記念館（青葉区熊ヶ根字大原地道内）
電話　022-393-2188（ＦＡＸ兼用）
開館時間　９時３０分～１６時００分
入館無料，月曜休館（祝日を除く）
祝日の翌日，冬季間(12/1～3/31)

「仙台市水道局キッズページ」で検索できる

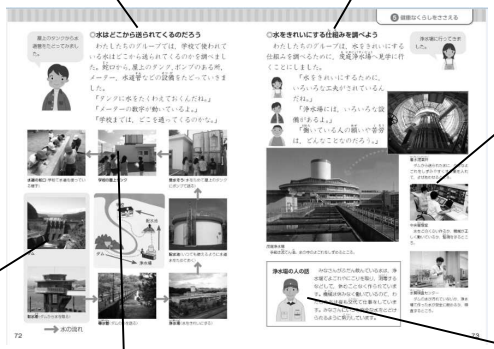
p. 72, 73	大単元名	5 健康なくらしをささえる	小単元名	①選択Ａ くらしをささえる水

タイトル
「水はどこから送られてくるのだろう」

複線化の一つ目の柱である。まず，学校の蛇口から学校のポンプ小屋までをたどってみる。その後，学校まではどのように送られてくるかを予想させるとよい。

本文「水をきれいにする仕組みを調べよう」

複線化の二つ目の柱である。見学の前に，教師が下見をしてきた写真を提示して，「どんな仕事をしているのか」「施設の概要」などについて捉えさせ，課題を持って見学に臨むことができるようにする。



図「水の流れ」

学校まで，水がどのように運ばれてくるのかを，図から読み取る。近くに配水所や浄水場，導水管などがないか，地域の様子を事前に調査しておくとよい。

ダムの取水塔から取り入れられた水は，トンネルや導水管で浄水場の沈砂池に送られる。

「学校の屋上タンク」

最近は屋上等高いところに水槽を置かない学校もあるので，学校の実情にあわせて指導する。

写真「中央管理室」

様々な工程が，コンピュータを使って，集中管理されていることに気付かせる。

本文「浄水場の方のお話」

浄水場で働く人々が一番努力していることは何かを考えさせる。私たちの生命に欠かせない水を作る上で，「安全」という考えが最重要課題であることに気付かせる。

p. 74, 75	大単元名	５ 健康なくらしをささえる	小単元名	①選択Ａ くらしをささえる水

本文「水が足りなくなることはないのかな」
仙台市で必要な水量は，仙台市内のダムだけでは賄えないことに気付かせる。このことから，飲料水の確保には，他市町村と協力が必要であることを考えさせる。県が中心となって広域水道の仕組みが作られている。

本文「どうして水はなくならないのだろう」
複線化の三つ目の柱である。自然の中で，水が循環していることに気付かせていく。しかし，日本の地形の特徴から，降水量が多いにもかかわらず，自然のまま利用できる水が少ないことにも触れるとよい。

写真「三つのダム」
安全でおいしい水を確保するために，山の森林が大きな役割を果たしている。特に東北地方には，ブナ林が多い。
自然のダムとともに，人工のダムも，河川水を安定的に利用するために欠かすことができないものであることに気付かせる。

図「七ヶ宿ダム」
昭和 52 年建設開始，平成 2 年 3 月に第 1 期工事完成。平成 6 年 3 月に第 2 期工事完成。これにより 1 日最大 297，000 立方メートルの水を供給することが可能になる。

図「南部山浄水場」
七ヶ宿ダムから取り入れ，きれいにした水を，総延長 180 キロメートルにも及ぶ送水管を通して 17 の市や町に送っている。

p. 76, 77	大単元名	５ 健康なくらしをささえる	小単元名	①選択Ａ くらしをささえる水

グラフ
1999 年以降人口が少しずつ増加しているのに対して，配水量は少しずつ減少している。節水意識の高まり，家電製品の技術進歩が関係していることに気付かせる。

学び方コーナー
縦軸の見方に気を付けさせる。できればコンピュータや視聴覚機器を用い，一方ずつ提示して，一つ一つの読み取りをしっかり行うとよい。また，今後グラフはどのようになっていくか予想させてみるのもよい。

水道局の人の話
水を安定供給するための努力や工夫があることについてまとめ，自分の生活をどう見直していくかを考えさせる。

「節水大作戦」
使用量を減らすという視点を基に考えを書かせることにより，社会参画の視点を育てられるようにしたい。

写真「天水おけ」
雨水を再利用している学校の例。自分たちの学校でも，このような節水のための施設がないか，家ではどんな工夫をしているかなどについて話し合い，節水への意欲付けとする。

本文「調べたことをまとめよう」
全体で共有したい内容は，教師が意図的にまとめていく。発表させることが目的ではなく，他のグループが調べた内容を共有させるようにする。

＊仙台市水道局から発刊されている『せんだいの水道』も資料として活用できる。

小単元名 p.78～81	①選択Ｂ くらしをささえるガス	小単元の目標	地域の人々の生活に必要なガスの確保について，自分たちの生活や産業との関わり，ガス確保の対策や事業は計画的，協力的に進められていることを調べ，これらは地域の人々の健康な生活や，良好な生活環境の向上に役立っていることを考えるようにする。

つかむ

p.78

◎ くらしのなかのガスについて調べよう。

・「家や学校，町の中でガスを使っているものにはどんなものがあるかな？」「どのくらい使っているのかな？」など，身近な生活の中から問題意識を持たせるようにする。

・ガスはどこからやってくるのかを考えさせる。

・ガス灯や天然ガスで走るバスなどもあることに気付かせる。

ガスはどこを通って来るのかな？

ガス料金をチェックしている人を見たよ！

学習問題

家や学校にとどくガスはどこでどのようにして作られ，送られてくるのでしょうか。

調べる

p.78,79

◎ ガスがどのようにして作られ，送られてきているのかを調べよう。

・ガスのメーターでどのくらいガスを使っているのかを調べる。

・ガスに関する資料やガス局のホームページで調べる。

・ガス局の方にお話を伺ったり，ガスのショールームやガス工場を見学したりする。

・ガスが作られていく過程にたくさんの人々の努力や思いがあることにも目を向けさせる。

p.79

◎ 調べて分かったことをまとめ，発表しよう。

・フロー図を活用したワークシートなどを用意してまとめやすくする。

・図や写真などを活用させ，分かりやすく説明させる。

・ガスを作り出すためには他の県や国の協力が不可欠であることも地図などを活用し，まとめさせる。

調べたり，考えたりしたことを新聞やポスターなどにまとめてガスの有効利用について発信する。

まとめる

p.79

◎ 調べてまとめたことや他のグループの発表を聞いて分かったことから，ガスの利用の仕方についてできることを考えよう。

・グラフからガスの利用は環境にも深く関わっていることに気付かせる。

・ガスを節約することで資源の有効利用にもつながることにも気付かせ，ポスターにしたりキャッチフレーズを作らせたりする。

・ガスに関わる人たちの安全に対する思いやシステムもしっかりつかませる。

教科書の活用

○　ガスについては教科書に記載はない。「生活にとって欠かせない飲料水，電気，ガスから一つを選択して取り上げる」単元であることから，各校の実態に応じて副読本を適切に活用する。

p. 78, 79	大単元名	5 健康なくらしをささえる	小単元名	①選択Ｂ くらしをささえるガス

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは，ガスの安定供給を図るため，様々な対策や事業が，広く他地域の人々の協力を得ながら進められていることを理解させることである。仕組みや工夫を身近な施設から調べることを通して，私たちが住みよい環境の中で健康な生活を営むことができるのは，これらの仕事に携わる人々の努力によるものであること，原料を外国から輸入してガスの確保に努めていること，安全確保にも努めていることなどに気付かせる。

写真「ＪＲ仙台駅前のガス灯」
ガスは，お湯を沸かすなどの熱源として利用することが多い。目に見えないため，児童には認識しにくいことも予想される。ガス灯や暖房などにも利用されていることに気付かせる。

写真「天然ガススタンド」
仙台市には天然ガススタンドが４か所ある。天然ガス自動車はガソリン車に比べ，CO2 を２～３割削減できる。仙台市の普及台数 595 台（平成 26 年度）。

本文「ガスがとどく仕組みを考えよう」
ここでは都市ガスについて取り上げている。ＬＰガスについては，日本ＬＰガス協会のホームページに資料があるので参考にしたい。
（http://www.j-lpgas.gr.jp/）

ヒント「都市ガスの原料」
都市ガスの原料がＬＮＧに移行してきた理由として，温暖化問題がある。二酸化炭素排出量と関連させて，環境への配慮に気付かせる。

グラフ「ガス原料の移り変わり」
ナフサや石炭に代わり，天然ガスの占める割合が高くなってきている。特にＬＮＧへの依存割合は 30 年間で３倍にもなっている。国産原料は，とても少ないことにも気付かせる。

ガス工場で働く人のお話
ガスを安定供給するために，常に安全を最重点に掲げていることをとらえさせる。

写真「導管ろうえい検査」
ガスを安全に供給するために，各導管のガス漏れの有無を３年に一度の割合で調べている。

本文「ガスは何から作られるのだろう」
ガスも限りある資源であることに気付かせ，これから自分たちにできることを考えさせる。

小単元名 p.80～81	①選択Ｃ くらしをささえる電気	小単元の目標	地域の人々の生活に必要な電気の確保について，自分たちの生活や産業との関わり，電気確保の対策や事業は計画的，協力的に進められていることを調べ，これらは地域の人々の健康な生活や，良好な生活環境の向上に役立っていることを考えるようにする。

つかむ

p.80

◎ くらしの中の電気について調べよう。

・「家や学校，町の中ではどのくらい電気を使っているのかな」など，身近な生活の中から問題意識を持たせるようにする。

・スイッチを押したりコンセントに差し込んだりすると繋がる電気はどこからやってくるのかを，考えさせる。

・「電気がなかったらどうなるだろう？」など停電の時を思い出させる。

やっぱり電線を伝わってくるのかな？

停電の時大変だったよ！

調べる

学習問題

家や学校にとどく電気は，どこでどのようにして作られ，送られてくるのでしょうか。

p.80,81

◎ 電気がどのようにして作られ，送られてきているのかを調べよう。

・学校の電気メーターや繋がっている電線を調べてみる。

・電力に関する資料や電力会社のホームページ，電気会社の方に伺って調べてみよう。

・電気が作られていく過程にたくさんの人々の努力や思いがあることにも目を向けさせる・電気を作り出すために，いろいろな発電方法があることにも目を向けさせる。

p.81

◎ 調べて分かったことをまとめて発表しよう。

・フロー図を活用したワークシートなどを用意してまとめやすくする。

・電気に関しては難しい言葉が多く出てくるので図や写真を活用させ，分かりやすく説明させる。

調べたり，考えたりしたことを新聞やポスターなどにまとめて電気の有効利用について発信する。

まとめる

p.81

◎ 調べてまとめたことや他のグループの発表を聞いて分かったことから電気の利用の仕方について，できることを考えよう。

・グラフからも人々が節電の努力をしていることに気付かせる。

・節電をすることで資源の有効利用にもつながることにも気付かせ，ポスターにしたりキャッチフレーズを作らせたりする。

教科書の活用

○　教科書の「ひろげる」には，電気についても問題解決的な学習ができるように紹介されている。電気を選択する際に活用するほか，例えば「くらしをささえる水」の学習の後に発展的な学習として取り上げることも考えられる。

p. 80, 81	大単元名	5 健康なくらしをささえる	小単元名	①選択Ｃ くらしをささえる電気

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは，電気の安定供給を図るため，様々な対策や事業が，広く他地域の人々の協力を得ながら進められていることを理解させることである。その仕組みや工夫を身近な施設から調べることを通して，これらの仕事に関わる人々の努力によって，私たちの健康な生活が維持されていることに気付かせ，電気を大切に使うために自分にできることを考えさせる。外国からも原料を輸入して電力量確保に努めていることにも気付かせる。

写真「光のページェント」

電気は,光として利用する以外にも,動力や暖房,家電製品など,幅広く使われていることに気付かせる。

図「電気が送られてくるしくみ」

例としてテレビを取り上げる。各家庭のコンセントまで,電気がどのように流れて来るかを図から読み取らせる。地域に変電所や送電線がないかを確かめておく。

グラフ「人口と電気消費量の変化」

人口の増加とともに使用量も増加していることに気付かせる。

また，家電製品のカタログなどを提示し，省エネが進んでいるにも関わらず消費量が伸び続けていたが，昨今その効果がやっと表れてきたことに気付かせる。

また震災以降，節電の意識も高まってきていることもあわせて考えさせたい。

電力会社の人の話

電気を安定供給するために努力していることについて理解させる。また，写真から，作業には危険が伴うことも考えさせ，生活を守るための人々の努力にも気付かせる。

※東北電力＞キッズ情報＞サイエンス電気の旅

http://www.tohoku-epco.co.jp/new_naze/denkinotabi/

電気が送られてくる仕組みを調べることができる。

※新仙台火力発電所ＳＳふれあい館　022－366－1331（現在休止中）
※三居沢電気百年館　022－261－5935
※女川原子力ＰＲセンター　0225－53－3410
※J-POWER 鬼首地熱発電所展示館　0229－82－2141（冬期間休館）

小単元名 p.82～87	②選択Ａ ごみと住みよいくらし	小単元の目標	人々の生活から出るごみの処理の仕組みについて，見学や調査を通して調べ，人々の健康な生活を維持するために必要なリサイクルや環境保護の大切さについて考えるようにする。

つかむ

p.82～p.83

◎ ごみを調べてみよう。

・家のごみを調べ，ごみの種類の違いやごみの量の多さに注目させる。

◎ 集積所の様子を調べよう。

・家庭で使用するごみ袋や集積所の様子からごみの収集の仕方に興味・関心をもたせる。

なぜ，ごみの種類ごとに集める日を決めているのかな？

集めたごみは，どこへ行くのだろう？

学習問題

わたしたちの生活から出るたくさんのごみは，どのように処理されているのでしょうか。

調べる

p.84～85

◎ 家庭ごみのゆくえをさぐろう。

・清掃工場を見学する計画を立てる。

・処理の仕方，環境への配慮，再利用，他地域とのつながり，働く人の様子を調べる。

◎ 家庭でいらなくなったしげん物のゆくえをさぐろう。

・資源化センターを見学し，リサイクルの仕方を調べる。

p.86

◎ ごみの問題について考えよう。

・「仙台市のごみの量と人口の変化」のグラフから，人口は増加しているがごみの量は減っていることを読み取らせる。

・2011年にごみの量が増えた理由を考えさせる（東日本大震災があったため）。

・仙台市のごみを減らす取組について知る。

※見学活動後は，壁新聞などに調べて分かったことをまとめさせる。

・清掃工場の仕組み

・ごみを処理する際に出る熱の再利用について

・他地域とのつながり（最後に残った灰は，埋め立て処分場へ運ばれることなど）

まとめる

p.87

◎ 自分たちにできることについて考えよう。

・ごみを減らす３つのポイント（リデュース・リユース・リサイクル：３Ｒ）を視点として「ごみの減量作戦」を考えさせる。

・自分たちが考えたごみを減らす工夫について紹介し，ごみを減らすためにできることを話し合う。

（例）・プリントの再利用をする。

・再生品を積極的に使う。

＜押さえること＞

ごみの処理についての工夫や協力が，自分たちの健康的な生活や住みよい環境の維持に役立っていることを理解しているか。

教科書の活用

○ 教科書，副読本の両方の事例地を取り上げることで，市町村によってごみの収集の仕方が違うことが分かる。ごみの処理の仕方や再利用には，地域によって様々な決まりやルールがあり，地域の人々が協力して住みよい環境をつくっていることを理解させることができる。

p. 82, 83	大単元名	5 健康なくらしをささえる	小単元名	②選択Ａ ごみと住みよいくらし

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは，清掃工場の見学などを通して，廃棄物の処理が計画的・協力的に行われていることを理解させることである。導入では，自分もごみを出している一人であることを再認識させ，廃棄物の問題は，私たちの身近な問題であることを捉えさせる。量の増加とともに質も多様化している廃棄物は，私たちの便利な生活と切り離せない問題であることに気付かせる。その上で，環境問題と関連付けて捉えさせ，この環境問題を解決するために，生活の中で自分にできることは何かを考えさせることが大切である。

キャラクター吹き出し

日常生活の中で，いつどんな時にごみを出したか思い出したり，実際に出たごみを確かめたりして話し合わせる。

写真「収集日を知らせるステッカー」

学校，家庭，地域のごみ集積所と，調べる範囲を広げ，この先はどうなっているのかという課題につなげていく。集積所の看板などから，地域やごみの種類によって，収集日や出し方に違いがあることを捉えさせる。

表「家庭から出る１週間分のごみ」

表にまとめさせる。種類だけでなく，プラ容器などは軽くても量が多いことなど，ごみのかさにも気付かせる。

メモのできる欄を作るとよい。「その他」欄に記入があった場合，正しい分別やリサイクルについて調べさせ，学習を広げる契機としたい。

学習問題

調べたことを基に，ごみの行方について調べたいことを考えさせたい。また，清掃工場の見学に意欲を持たせ，計画を立てるようにする。

p. 84, 85	大単元名	5 健康なくらしをささえる	小単元名	②選択Ａ ごみと住みよいくらし

葛岡工場の人の話

周辺の住民や環境に配慮した燃やし方，ごみを燃やした熱を発電やプールなどに利用していることなどをつかませる。

蒸気タービン発電機で作られた蒸気は１基あたり，最大 4,500ｋW 発電する。

＊見学に当たっては，下記のことをしっかり捉えさせ，「わたしたちにできること」につなげていく。

・分別せずにごみを出すデメリット
・処理費用
・限度ある埋立処分場

（２）「かん，びん，ペットボトル，廃かん電池類」のゆくえ

さらに手作業で細かく分別し，それぞれの材質に合わせて，リサイクルやリユースされることになる。手間が掛かるのに，それを行う理由などを考えさせる。

図「家庭ごみの処理の仕組み」

見学の際には，実際に集められたごみの量や種類の多さを，実感として捉えさせる。処理に当たっては，コンピュータで集中管理しているなど，安全に配慮していることを理解させる。

(3)「紙類」のゆくえ

平成 20 年 10 月１日から市内全域で月２回の無料回収が始まった。これまで，家庭ごみとして捨てられることが多かったことに気付かせる。

雑紙をリサイクルする意義についても改めて確認させる。

【調べ学習のために】

○仙台市ホームページ「くらしのガイドーごみの出し方」
○見学できるごみ処理施設
・今泉工場（022-289-4671）
・葛岡工場（022-277-5399）
・松森工場（022-373-5399）
・葛岡資源化センター（022-277-8310）
・松森資源化センター（022-374-8853）

絵地図「ごみしょりしせつのあるところ」

自分たちの地域のごみは，どこの処理施設に運ばれるのかを確かめさせる。現在，埋立処分場は石積にしかなく，仙台市のごみを富谷町に運んでいることを押さえさせる。

p. 86, 87	大単元名	５ 健康なくらしをささえる	小単元名	②選択Ａ ごみと住みよいくらし

グラフ「ごみと人口のへん化」

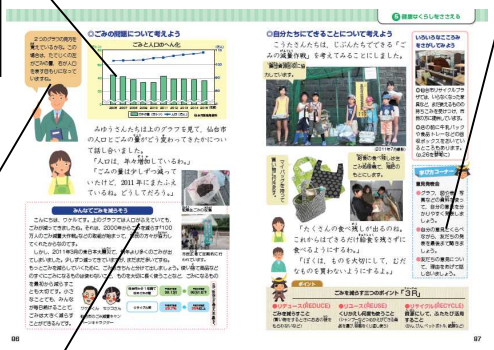
２０００年から始まった「ごみ減量大作戦」により，２０１０年まではごみの量は順調に減ってきた。しかし，２０１１年の震災により増加した。仙台市では再びごみの減量に向けて努力していることに気付かせたい。

先生の吹き出し

二つのグラフの見方について，左右の縦軸を確認することを押さえる。（ｐ．７６学び方コーナーを振り返る。）

100 万人のごみ減量大作戦

児童は，「物を作る材料に限りがある」という意識をあまりもっていない。これまでの学習を通して，しっかり押さえ，地球規模で取り組むことの必要性に気付かせる。



意見発表会

一般論でなく，児童一人一人ができることを考えさせ，実際に行動することが大事であることを捉えさせる。

学校でできることや家庭でできることを，小さな活動であっても，続けていくこと大切であることを理解させたい。

※仙台市ごみ減量リサイクル情報総合サイト
「ワケルネット」
http://www.gomi100.com/

小単元名 p.88～91	②選択Ｂ 使われた水のゆくえ	小単元の目標	人々の生活から出る下水の処理の仕組みについて，見学や調査を通して調べ，人々の健康な生活を維持するために必要な環境保護や資源を維持するための水の再利用の大切さについて考えるようにする。

つかむ

p.88

○ 使った水はどこへ流れていくのだろう。

・使って汚れた水の種類を想起させ，家の下水や学校の下水について具体的に調べさせる。

・使用後の水のゆくえを予想させ，処理の仕組みに関心を持たせる。

洗剤の泡や絵の具を洗った水はかなり汚れているよ。

使われた水はどこまで行くんだろう。

学習問題

わたしたちの生活から出るたくさんの下水は，どのように処理されているのでしょうか。

調べる

p.89

○ 下水道の仕組みを調べてみよう。

・副読本の図やマンホールの写真を提示し雨水は雨水管を通って川や海につながっていることに気付かせる。

・生活で使われた水は，汚水管を通ってポンプ場に集められ，圧力をかけて浄化センターへ送られることを理解させる。

p.90～91

○ 浄化センターの仕組み

・浄化センターを見学する計画を立てる。

・処理の仕方，環境への配慮，再利用，働く人の様子を調べる。

※見学ができない場合は，仙台市下水道ホームページで調べたり，出前講座等を活用したりする。

※見学活動後は，壁新聞などに調べて分かったことをまとめさせる。

・浄化センターの仕組み

・下水を処理する際に出る汚れや泥を固めてセメント原料として再利用していること

・下水道があることで役立っていること

まとめる

p.91

○ 自分たちにできることについて考えよう。

・自分たちが考えた水を汚さない工夫について紹介し，私たちの生活と水とのかかわりについて話し合う。

（例）・油や牛乳をそのまま流さないようにする。

・下水道管が詰まるので，食べ残しを流さないようにする。

・側溝にごみを捨てない。

・地域の側溝掃除に参加する。

＜押さえること＞

下水の処理についての工夫や協力が，自分たちの健康的な生活や住みよい環境の維持に役立っていることを理解しているか。

教科書の活用

○　教科書の「ひろげる」には「下水の処理と利用」が掲載されている。副読本と組み合わせて学習することで，浄水場ごとに水をきれいにする仕組みが少しずつ違うことに気付かせることができる。また，どの地域でも下水をきれいに処理し，環境を守っていることを理解させるとができる。

p. 88, 89	大単元名	5 健康なくらしをささえる	小単元名	②選択Ｂ 使われた水のゆくえ

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは，清掃工場の見学などを通して，廃棄物の処理が計画的・協力的に行われていること，汚水の処理は，人々の健康な生活を守るとともに，水を自然界で循環させていくためにも大切な働きであることを理解させることである。導入では，使った水の行方調べなどを行い，自分も汚水を出している一人であることを再認識させる。そして，汚水の問題は，私たちの身近な問題であることに気付かせる。その上で，水を大切に使ったり自然環境を守ったりするためには，自分に何ができるのかを考えさせることが大切である。

本文「使った水はどこへ流れていくのだろう」
生活などで使った水は，その後どうなっているのか，知っていることを話し合う。

写真「洗濯の様子」
児童にとって身近な場面として例示している。このほかにもたくさん考えられるので，児童が話し合うきっかけとして活用する。

グラフ「仙台市で使われる水の割合」「家庭で使われる水の割合」
家庭で多くの水が使われていることに気付かせる。日常生活の中で使った水がどこに流れていくのかを考えさせる。

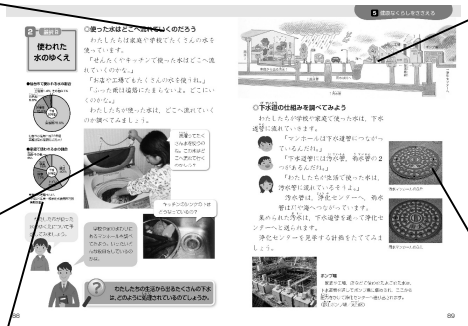


図
マンホール調べの後，図でまとめるようにする。家庭からの汚水と雨水は，違う管を通ることから，家庭排水が直接川に流れ込むことはないことに気付かせる。

写真「汚水マンホール」
たくさんの汚水があふれることなく流れる理由を考えさせる。
写真のような大きなポンプ場のほかに，マンホールポンプ場という小さなものが 185 箇所ある。

※平成 12 年度「仙台市下水道基本計画」に基づき下水道の改善が進められている。平成 16 年度からは，全戸水洗化を進めており，平成 25 年度末の人口普及率は 99.5%となっている。

※仙台市の下水道は，藩政時代，城下町の中を巡らせた「四谷用水」に始まる。近代的下水道は，明治 32 年，ヨーロッパの下水道施設に学び建設が始まった。東京・大阪に次いで全国 3 番目。しかし，当時はまだ，広瀬川・梅田川に直接流していたため，水質汚濁が進んだ。

p. 90, 91	大単元名	5 健康なくらしをささえる	小単元名	②選択Ｂ 使われた水のゆくえ

写真「水質検査」
川に放流する前には，水質検査を行い，環境への配慮をしていることをしっかりと捉えさせる。

写真「水をきれいにするしくみ」
浄化する工程のうち，代表的な工程を示してある。施設全体の写真と，上の絵図を照らし合わせながら説明するとよい。

浄化センターの方の話
働く人の努力や環境への配慮などをとらえさせる。また，汚水の処理後，汚れや泥が残ることにも気付かせ，それらも埋め立てる必要があることを理解させる。

仙台市建設局資料
下水道は，感染症の予防など，私たちの健康な生活を守る上でも大切な働きをしていることに触れる。

キャラクター吹き出し
一般論ではなく，自分にできることを具体的に考えさせ，実際に学校でも実践させるとよい。

広瀬川浄化センター（青葉区折立 3-20-2）
仙台市では広瀬川の環境を守るために、「広瀬川の清流を守る条例」により汚染された排水の広瀬川への放流を禁止している。広瀬川浄化センターは，条例を守る性能を備えて，平成 5 年に供用を開始した。

p. 92, 93	大単元名	3 年 わたしたちのまちみんなのまち	小単元名	市の様子

【指導に当たって】

仙台市内の主な公共施設について取り上げている。また，校外学習等の事前指導の資料としても活用できる。

仙台市八木山動物公園
1936 年に日本で 11 番目の動物園として仙台市花壇に開園する。1965 年に現在の八木山に新築移転する。

仙台市陸上競技場
2009 年に宮城県から仙台市に譲渡される。2011 年にはトラックの大規模修理が行われる。

仙台市天文台
1955 年に西公園内の仙台市公会堂跡地に開台。2008 年に現在の青葉区錦ヶ丘に移転，開台する。

せんだいメディアテーク
2001 年に開館。仙台市民図書館，ギャラリー，イベントスペース，ミニシアターなどからなる。全面ガラス張りの建築は建築家伊藤豊雄の代表作と言われる。写真右はメディアテークに併設されている仙台市民図書館。

仙台市科学館
昭和 43 年に仙台市中心部に開館。平成 2 年に現在の台原森林公園内に移転する。

仙台文学館
郷土ゆかりの文学に関する資料を収集保存するとともに，地域の文学活動の拠点となることをコンセプトに平成 11 年に開館。

宮城県美術館
1981 年に開館。宮城県及び東北地方にゆかりのある作品が多く収集されている。1990 年には，本館西隣に佐藤忠良記念館がオープンした。

仙台うみの杜水族館
「復興を象徴する水族館」として，2015 年に開館。80 年の歴史を閉じたマリンピア松島水族館の一部を引き継ぎ，さらにスケールの大きな展示やイベント等を展開する。

p. 94, 95	大単元名	5 年 わたしたちの生活と工業生産	小単元名	自動車をつくる工場

【指導に当たって】

地域の工場を取り上げる場合，工場見学を学習計画に位置付けることができる。また，工業製品と自分たちの暮らしの結びつきに気付かせたい。

仙台味噌
仙台藩では，城下に御塩噌蔵（おえんそぐら）を作らせ，ここで味噌の醸造や貯蔵をさせた。また，江戸にあった仙台藩の屋敷では，江戸にいる藩士のために味噌を作っていた。これを近所の住人の求めに応じて分け与えたところ，江戸中の評判になったという。

「輪転機」
最大 40 ページ，24 個面カラー印刷が可能な高速タワー型オフセット輪転機（17 万部／時）を 4 セット備えている。

おけがえ
「桶替え」と書き，樽に入っている味噌をスコップですくい，別の樽へと味噌を移す作業のこと。多くの空気と触れさせることで味噌のおいしさが増す。

環境に優しい取組
インキの VOC（Volatile Organic Compounds＝揮発性有機化合物）を低減するために使用する溶剤の一部を大豆油に置き換えた Soy Ink（大豆油インキ）を使用している。

仙台みそをつくる工場
仙台市内に残る伝統的な味噌作りの様子を学習する手がかりとなる。昔ながらの道具に加え近代的な道具も使って仕事が進められている。

新聞工場見学の申込先
河北新報社 教育プロジェクト事務局
TEL022－211－1309

p. 96, 97	大単元名	４年　きょう土を開く ５年情報化した社会とわたしたちの生活	小単元名	地域の文化を受けつぐ 情報産業とわたしたちのくらし

【指導にあたって】

○河北新報の創設に関わった一力健治郎についての資料として活用できる。

○ＮＨＫ仙台放送局を例に，ニュース番組が放送されるまでの流れをつかませることができる。

河北新報社の設立

「東北振興」等の言葉から，河北新報社設立時の一力健治郎の思いをつかませたい。また，こうした考えが現在にも引き継がれていることにも気づかせたい。

NHK 仙台放送局

放送局では学校の見学受付を行っている。
所在地：青葉区錦町 1－11－1
見学の受付：022－211－1101

一力健治郎

1863 年，仙台市の大町に生まれる。20 歳を過ぎ，東華学校（仙台第一高等学校），旧制第二高等学校（東北大学），東京の学校にも進学。市会議員や県会議員を務めた後，新聞を東北地方の文化と産業の発展に役立てようと，河北新報社を設立。1897 年，33 歳で河北新報を創刊。当時は新聞をとる人が少なく苦しい経営だったが，様々な努力を重ねた。

河北新聞の昔と今の紙面を比較できる。
昔の紙面：明治40年6月22日発行
今の紙面：平成25年11月3日発行

ニュース番組が放送されるまで

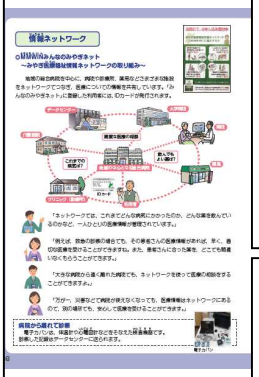
ニュース番組が放送されるまでの流れをつかむことができる。放送局の見学を取り入れる場合は，放送の仕方や放送局の様子を見学するとともに，放送に携わる人々がどのようなことに配慮しているのかについて，つかませたい。

p. 98	大単元名	５年　情報化した社会とわたしたちの生活	小単元名	社会を変える情報

【指導にあたって】

「みやぎ医療福祉情報ネットワーク」の取組を例に，情報ネットワークが医療・福祉の場で活用されている事例の資料として活用できる。こうした取組が人々のくらしにどのように役立つのか考えさせたい。

東日本大震災では，多くの病院が津波の被害を受け，患者のカルテなども消失した。これにより，患者の病気の症状や投薬の履歴など医療情報も喪失し，被災した人々に，適切な医療を施すことができなくなった。そこで，当時，被災地の医療に携わった災害救助医療チームを中心に医師，看護師，研究者等，医療・福祉に携わる人々が集まり，「医療情報さえあれば，助けられる命がある…」という思いから，この組織を立ち上げている。また，県内では従来，遠隔地医療の問題を抱えており，これらの解決策として有効な手段であると考えられる。



2013 年，石巻・気仙沼地区で運用が始まり，同地区では 74 の施設がネットワークに参加している。さらに他の地域でもネットワークの構築を行い，2014 年，仙台市内で２３８の施設が参加している。市民は，事前の登録をすることでこの制度を利用することができる。

１人に関わる主な医療情報

例：病院・診療所→診療情報，薬局→調剤情報，介護施設→介護情報

医療情報を共有することで，医療・福祉機関，患者，双方のメリットが得られる。また医療情報をデータセンターに集約することで，医療情報の消失を防ぎ，災害に強い医療体制を構築している。

参考　一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会
ホームページ　http://mmwin.or.jp/

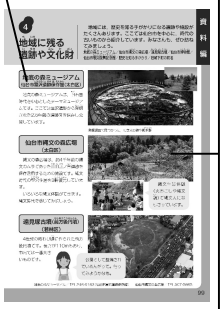
p. 99	大単元名	３年　わたしたちのまちみんなのまち ６年　日本の歴史	小単元名	市の様子 縄文のむらから古墳のくにへ

【指導に当たって】

歴史の学習の入り口として，仙台市内にある遺跡や施設の見学を取り入れたい。地底の森ミュージアム，縄文の森広場では，見学のワークや体験メニューを用意している。

仙台市富沢遺跡保存館 地底の森ミュージアム

富沢遺跡は仙台市の東南部に広がる面積が約 90ha という広大な遺跡。昭和 57 年(1982)から発掘調査が行われ，弥生時代から明治時代にかけての大規模な水田遺跡として知られるようになる。その後の調査で下層から縄文時代の層が確認され，昭和 63 年(1988)に初めて旧石器時代のたき火跡が見つかったことから，富沢の歴史が 2 万年前の氷河期までさかのぼることが明らかになった。



仙台市縄文の森広場

昭和 55 年(1980)に発掘調査が行われる。縄文時代のムラ全体の様子が分かる遺跡として保存される。「上ノ台」という地名が表すように，標高 55mの見晴らしのよい高台に位置する。太古には南側を流れている名取川の河原だったために，ほぼ平らな土地になっている。縄文のムラがあった頃は今よりも近くを名取川が流れ，台地のまわりには豊かな森が広がっていたと考えられる。

仙台市の遺跡

市内には多数の遺跡があるが，代表的な遺跡として遠見塚古墳を紹介している。市内の遺跡については，市文化財課のホームページからも調べることができる。

p. 100, 101	大単元名	６年　日本の歴史	小単元名	戦国の世から江戸の世へ

【指導に当たって】

○　仙台藩 62 万石の基礎を築いた伊達政宗の生涯について紹介している。全国統一を進めた３人の戦国武将（織田信長，豊臣秀吉，徳川家康）と関連付けた学習の展開も可能である。

仙台市博物館

博物館では伊達政宗や仙台藩の様子について学ぶことができる。施設を利用し，実物資料を見ながらの学習を展開したい。

「伊達政宗画像」

両目が描かれていることなどに着目させ，後に独眼竜と言われた政宗のエピソードに興味を持たせたい。左上は，政宗が晩年，自分の気持ちを詠んだと言われる漢詩。

政宗の持ち物

政宗のよろいかぶとからは戦国時代の戦の様子を想起させることができる。陣羽織やブローチから，当時南蛮文化が伝来し，政宗が目を向けていたことをつかませることができる。

年表

戦国の世からから江戸時代へと活躍した政宗の生涯についてつかませることができる。

伊達 政宗

永禄 10 年(1567)，米沢(山形県米沢市)に生まれる。父は輝宗，母は山形城主最上義光の妹にあたる義姫。幼少期に右目を失明し，後に「独眼竜」と呼ばれる。18 歳で家督を継いだ政宗は，翌年の父輝宗の非業の死を乗り越え，蘆名，相馬，大崎，最上など，近隣の戦国大名らと戦う日々を送る。しかし，この頃豊臣秀吉による天下統一が推し進められ，豊臣政権下の大名へと転身することになる。豊臣と徳川の対立による動乱の後，徳川幕府が成立し，江戸時代を迎える。政宗はこうした動乱の時代を乗り越え，東北の雄から全国有数の大名へと成長をとげる。仙台城の築城，城下町の整備，新田の開発，寺社の造営・再興，北上川の河川工事等，仙台藩 62 万石の仙台藩の礎を築いた。

p. 102, 103	大単元名	６年　日本の歴史	小単元名	戦国の世から江戸の世へ

【指導に当たって】

○　慶長遣欧使節と支倉常長については，江戸幕府によるキリスト教の禁止と関連付けて学習を展開することができる。また，慶長遣欧使節がユネスコの世界記憶遺産に登録されていることについても触れたい。実物の資料については，仙台市博物館で見学できる。

○　林子平については，江戸時代の後期になり外国船が日本に開国を求め接近したことや，幕府を批判する学者などが現れたことと関連付けて，学習を展開することができる。

支倉常長像

ロザリオを持つ支倉常長が，キリストに祈りを捧げている。絵を折り曲げたような跡がある点に着目し，当時の日本ではキリスト教が禁止されていたことと関連があることに気付かせたい。

慶長遣欧使節

サン・フアン・バウティスタ号に，総勢 180 人を乗せての船出であった。一行には宣教師のルイス・ソテロが同行し，通訳として活躍する。ソテロは政宗にローマに使節を送ることを熱心に勧めていた。

ローマ市公民権証書・パウロ五世像

ローマ市議会が常長にローマ市の公民権を与え，貴族に列する旨を認めた証書。パウロ五世像は，常長らがローマで謁見した，ローマ教皇パウロ五世の肖像画。

林　子平

1738 年，江戸に生まれる。兄が藩医となった縁で，家族と共に仙台に移り住む。子平は江戸や長崎など全国を遊歴し，ロシアの南下政策や欧米の植民地政策など外国の形勢を見聞した。「世界之図」は，子平が長崎で通訳の松村元綱が持っていた「世界之図」を模写したもの。「海国兵談」は子平の代表的著作。青葉区子平町の龍雲院に子平の墓がある。

p. 104, 105	大単元名	６年　日本の歴史 ３年わたしのまち　みんなのまち ３年かわってきた人々のくらし	小単元名	長く続いた戦争と人々のくらし 市のしょうかいをしよう のこしたいもの，つたえたいもの

【指導に当たって】

○仙台市戦災復記念館では，戦時中の人々の暮らしや，仙台空襲の様子から街の復興までの様子について学ぶことができる。学習計画の中にぜひ施設の見学を位置付けたい。

○地域の歴史を知る手がかりになる施設，様々な遺跡や道しるべ石，神社，寺などを取り上げている。遺跡や文化財に携わる人，博物館，公民館，地域の人に話を聞くなどしながら，学習を展開したい。また，教師が地域の歴史について調べる際，「仙台市史」等の自治体史も活用したい。

仙台市戦災復興記念館

昭和 20 年(1945)7 月 10 日未明，午前 0 時 3 分，仙台市中心部に 12,960 発の爆弾が落され，約 500ha を焼失。身元が判明した方だけで，1064 名もの人命が失われた。戦災復興記念館は，未来への記憶として，世代を超えて語り継ぐために，昭和 56 年(1981)に，戦災復興事業の締めくくりとして開館した。

仙台空襲を体験した方の話（元東二番丁小ゲストティーチャー 今井さん）

戦時中の仙台，空襲の様子を伝える資料。戦災復興記念館では学習教材用 DVD 資料を貸出す他，戦争の語り部の紹介，職員による館外での出前授業を受け付けている。授業に合わせて活用したい。

歴史を知る手がかり

遺跡や神社，寺，道しるべ石等から，地域の歴史に触れることができる。機会があれば，地域に残る歴史の跡を是非訪ねてみたい。

また，旧城下町の地名が残る地域では，町割りなど昔の様子を知ることができる。下段の写真は，当時の町名が記された辻標。

※城下町，辻標についての参考資料：仙台市史通史編「近世１」，仙台市文化財パンフレット第35集『仙台の由緒ある町名・通名を訪ねて 辻標』

p. 106, 107	大単元名	６年 わたしたちの生活と政治	小単元名	わたしたちの願いを実現する政治 わたしたちのくらしと日本国憲法

【指導に当たって】

○ 図から市民，市役所，市議会の関係をつかませ，市民の願いを実現するための政治の役割に気付かせたい。また，税金の使われ方から，市民の生活を支えるための税金の役割にも気付かせたい。

○ 豊かなくらしを実現するために，日本国憲法がどのような働きをしているか考えさせたい。ここでは，「基本的人権の尊重」と子育てが安心してできるまちやユニバーサルデザインとの関わり，「国民主権」と裁判所の関わりについて取り上げている。

市民の願い，市役所，市議会

図から，市民の願いが政治によってどのように実現されるかをつかませることができる。市役所，市議会のそれぞれの役割を調べ，それぞれどのような関わりがあるかをつかませたい。

みんなが暮らしやすいまち

誰でも安心して暮らすことができるまちづくりにはどのようなことが必要か，福祉の視点から考えさせたい。

仙台高等裁判所

高等裁判所は，主に第二審を担当し，札幌，仙台，東京，名古屋，大阪，広島，高松，福岡に置かれる。仙台高等裁判所では，小・中学生を対象とした見学を受け付けている。

所在地：青葉区片平１丁目 6-1

問い合わせ先：022-745-6195

税金の働き

税金が様々な場面で使われていることについて，具体的な例を挙げて捉えさせたい。

p. 108, 109	大単元名	4 年きょう土をひらく	資料	仙台市名誉市民

【指導に当たって】

仙台市の発展に尽くした，仙台市名誉市民について取り上げている。地域の発展につくした人々について調べ，その業績や苦心を知ることで，地域に対する誇りと愛情を育てたい。

本文「仙台市名誉市民」

仙台市では，これまで 22 名の方々に，名誉市民の称号を送っている。ここではそれぞれの功績について紹介している。

「仙台市名誉市民について」

仙台市役所１階「市民ギャラリー」や仙台市のホームページで参照することができる。

また，仙台市史通史編「現代２」にも名誉市民※の業績がまとめられている。

※平成元年までの表彰者

《表彰年一覧》

Ｓ２４　本多光太郎・志賀潔・土井林吉(晩翠)
Ｓ３１　熊谷岱蔵・槇有恒
Ｓ３４　村上武次郎・阿部次郎・増本量・野副鉄男
Ｓ３６　内ヶ崎贇五郎
Ｓ３９　一力次郎・黒川利雄
Ｓ４４　千嘉代子
Ｓ５２　菊地養之輔・加藤多喜雄
Ｓ５９　西澤潤一
Ｈ元　石田名香雄
Ｈ８　加藤陸奥雄・杉村惇
Ｈ１６　小田滋　一力一夫
Ｈ２６　岩崎俊一

p. 110, 111	大単元名	4年　きょう土をひらく	資料	本多 光太郎

【指導に当たって】

鉄の神様と言われた「本多光太郎」の業績を取り上げている。東北大学金属材料研究所本多記念館では，KS 磁石鋼，新 KS 磁石鋼を始め，本多の業績がわかる様々な資料が展示されている。

写真「本多光太郎」
KS 磁石鋼の写真や，切手から本多の業績に関心を持たせたい。

本文
本多は「産業は学問の道場」という言葉を残し，産学共同を重視，博士の尽力により，多くの新しい企業が仙台に誕生した。

「本多光太郎の年譜」
光太郎に関する「出来事」や「業績」について，年代を追って記載した。少年期や青年期の様子については，本文から読み取らせたい。

光太郎の少年時代
小学生時代は,「鼻たらしの光さんと呼ばれ，特に暗記が苦手だった。そのためにしばしば学校へは行かずに魚とりなどをして過ごしていた。」と伝えられている。

「ＫＳ磁石鋼」
鉄及び鉄合金の研究に励み,強力な磁石鋼である KS 磁石鋼を，さらにその４倍近い保磁力を持つ新ＫＳ鋼を発明し，文化勲章を受章した。

説明「寺田先生の言葉」
光太郎の才能を見出した寺田先生の言葉が，学問の道を強く志すきっかけとなった。

「東北大学金属材料研究所本多記念館」
本多光太郎に関する資料が保管されている。
青葉区片平２－１　Tel　２１５－２１８１

p. 112, 113	大単元名	4年　きょう土をひらく	資料	土井 晩翠

【指導に当たって】

「荒城の月」でも知られる詩人「土井晩翠」の業績を取り上げている。土井の業績については，立町小学校土井晩翠校歌資料室（主に校歌を中心に），仙台文学館，晩翠草堂等で調べることができる。

写真「土井晩翠」
「荒城の月」や土井晩翠が作った数々の校歌から晩翠の業績に関心を持たせたい。

土井晩翠が作詞した学校の校歌
全国の学校と海外の日本人学校なども含めると１９５校もの校歌の作詞を手掛けている。

「土井晩翠の年譜」
晩翠に関する「出来事」や「職業」について，年代を追って記載した。少年期や青年期の様子については,本文から読み取らせたい。

「晩翠の少年時代」
「小さいころからお話を聞いたり本を読んだりするのが大好きな子供だったそうです。字の読めないうちは，和歌や俳句に親しんでいた父親や祖母に昔話をよくねだっていました。
小学校に通うようになると，中国の歴史物語を夢中で読んでいました。その熱心さには，担任の先生も感心するほどだった。」と伝えられている。

情報コーナー「仙台文学館」
晩翠については仙台文学館の「晩翠コーナー」で展示されている。文学館では，館内見学の際の講座や，学校への出前授業も受け付けている。
仙台文学館
青葉区北根２－７－１
℡022－271－3020

写真「土井晩翠校歌資料室」
立町小学校の中に晩翠が残した，たくさんの資料が展示されている。
立町小／青葉区立町８－１

「土井晩翠先生作詞の校歌をいっしょに歌いましょうの会」
木町通小，立町小，片平丁小，北六番丁小の他，各団体が集まり，「荒城の月」の合唱や，土井晩翠が作詞した校歌の披露などが行われる。

「市民合唱」
毎年，土井晩翠の命日（10 月 19 日）に，晩翠顕彰会が「荒城の月」の碑の前で,「荒城の月」の大合唱を行う記念行事を開催している。

折込ページ	大単元名	４年　わたしたちの県 ５年　世界の中の国土	小単元名	世界とつながるわたしたちの県 わたしたちの国土

【指導に当たって】

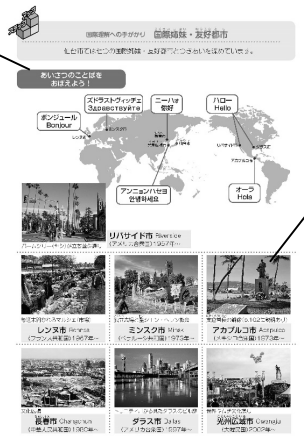
仙台市の国際姉妹・友好都市にてついて取り上げている。宮城県と他地域，外国との結びつきについて調べる学習の資料として活用できる。

世界地図・説明

各国際姉妹・友好都市の場所と挨拶を紹介し，様々な国の言葉に触れさせたい。

説明

各国際姉妹・友好都市名と，締結年が紹介されている。それぞれの都市との提携動機等の詳細については，仙台市のホームページを参照することができる。他に，交流促進協定締結都市・台南市(台湾)，産業振興に関する協定締結都市・オウル市(フィンランド共和国)がある。



写真

各都市の様子を知る手掛かりとして，各国際姉妹・友好都市の特徴的な建物や祭りの様子，町並みなどを紹介したい。また，地図帳を使って，国や都市の位置を確かめさせたい。

※参考　仙台市の国内姉妹都市

音楽姉妹都市：竹田市（大分県），中野市（長野県）
観光姉妹都市：徳島市（徳島県）
歴史姉妹都市：宇和島市（愛媛県），白老町（北海道）

＜国際姉妹・友好都市＞

○リバサイド市(アメリカ合衆国)～風光明媚な南カリフォルニアの中心にあるリバサイド郡の郡都で，郡の西部に位置し，ロサンゼルスから車で一時間程度のところにある。かつて柑橘産業が盛んだったため，その時代の遺産が随所に見られる歴史の街。現在は小売業とエンターテイメント産業において継続的に発展しており，南カリフォルニア第三の郊外小売業中心都市である。また，教育水準も高く，数多くの研究機関が集積している。人口約 32 万人。

○レンヌ市(フランス共和国) ～ブルターニュ州の州都であり，政治・経済・文化の中心地。中世以来の伝統的な建築と近代的な建築とが調和した落ち着きのあるまち。多くの高等教育機関や研究機関があり，ブルターニュの学術研究の中心的役割を果たしている。また，農林漁業の中心地で畜産，酪農等が盛んであり，バイオ・テクノロジーを利用した食品加工業も盛んになってきている。通信光学関係の研究も盛んで産・学・官共同のプロジェクトであるレンヌ・アタラントを中心に日本企業の進出も進んでいる。人口約 21 万人。

○ミンスク市(ベラルーシ共和国) ～古くからの歴史と伝統を持つ都市で現在ベラルーシ共和国の首都。姉妹都市提携当時は，旧ソ連邦の白ロシア共和国だったが，1991 年に独立し，国名をベラルーシ共和国と改め，現在にいたっている。第 2 次世界大戦による戦災で古い街並みは失われたが，戦後著しい復興を遂げ，自動車やトラクターなどの生産が盛んな工業都市として生まれ変わった。また，ベラルーシ国立大学をはじめとする大学や研究機関，オペラ，バレエ劇場や博物館，美術館などの文化施設が数多く立地する学術・文化都市でもある。人口約 190 万人。

○アカプルコ市(メキシコ合衆国)～メキシコ合衆国太平洋岸ゲレーロ州最大の都市。首都メキシコシティから約 400km の地点に位置し，太平洋岸でも最も古く，また，美しい港のひとつであるアカプルコ港を有する。美しい砂浜と変化に富んだ海岸線で知られる国際的な観光保養都市であり，主な産業は観光業である。1614 年（慶長 19 年）の慶長遣欧使節支倉常長アカプルコ上陸を縁として，姉妹都市提携がなされた。人口約 79 万人

○長春市(中華人民共和国) ～吉林省の省都で，肥沃な土壌をベースに農業が発達しており，「東北食糧庫」と称されている。工業では「長春第一自動車グループ」等を中心とする交通運輸設備製造業が主体であるほか，電子・光学・食品・軽紡化学・建材等の産業が発達しており，また映画産業も盛んである。また，吉林大学など 25 以上の大学をはじめ，数多くの高等教育機関や研究所があり，教育の中心地でもある。総人口約 757 万人

○ダラス市(アメリカ合衆国)~商業，流通，金融，製造業が盛んなアメリカ合衆国中南部の拠点都市。全米最大規模のダラス・フォートワース国際空港や世界最大の卸売展示場であるダラス・マーケットセンターなどの施設があり，全米有数のコンベンション都市である。プロスポーツの盛んな都市としても有名で，アメリカンフットボール，バスケットボール，野球，サッカー，アイスホッケーなどのプロチームが本拠地としている。人口約 128 万人。

○光州広域市(大韓民国) ~首都ソウルから南へ約 330km，飛行機で約 40 分のところに位置する大韓民国南西部の政治・経済・文化・教育の中心地。韓国南西地域を代表する芸術の都と言われ，パンソリ（物語を歌唱化した民族芸能）の発祥地であり，墨の香りが漂う南宗画（韓国画）もさかんである。また，1995 年（平成 7 年）から世界美術博覧会「光州ビエンナーレ」を創設し，韓国の文化芸術を世界に広めることを目指している。他にも，先端産業団地の整備や科学技術院の設置などを行い，先端技術産業の育成・誘致にも力を注いでいる。人口約 149 万人。

～仙台市ホームページより